平成二十八年度　第百十七回

京都大学書道部

初夏書展

日時　平成二十八年　六月十八日・十九日

十時～十七時（十九日は受付十六時まで）

場所　建仁寺　西来院・禅居庵

―巻頭に寄せて―

「人のワザを盗め。そしてその人を敬え。」

これは、私がバレーボールに勤しんだ高校時代、顧問の先生から耳にたこができるほど聞かされた言葉である。しかしながら、当時の私は反抗的であった。小学三年生でバレーボールを始め、ある程度の技術は確立していると思い込んでいたため、向上意欲に欠けており、常にその言葉にも疑問を抱いていた。そうして新たなスタイルを見出せないまま引退……。

さて、ここで書道に焦点を当てよう。「臨書」というのは、古くの優れた古典を手本として書くものである。古典の形・線質を追求していくうちに、それ特有の雰囲気や筆の運び方を身につけることができる。

この書道部に入って二年。その中で、私はたくさんの古典を臨書し、さまざまな筆法を学んだ。さらに、先輩方や他部員が書いている姿を見て真似ることでも新しい技術を習得した、すなわち盗んだ。書道を始めて十六年になるが、「人のワザを盗む」ことは、まだまだ私の創作の幅を広げてくれる。そして今、あらためて高校時代の顧問の先生の言葉を心に刻む。向上の根底にある「他者の存在」を大切にしていきたいものである。

こうして今回書展を開催できるのも多くの方々のご協力があったおかげです。日頃からご指導いただいている顧問の阿辻哲次先生や技術顧問の寺本蒼玄先生をはじめ、関係者の皆様には心より御礼申し上げます。

最後になりましたが、本日はお忙しい中、第百十七回京都大学書道部初夏書展に足をお運びいただき誠にありがとうございます。日々練習を積み重ねてきた部員たちの力作の数々をどうぞごゆっくりお楽しみください。

平成二八年六月吉日

京都大学書道部　部長　矢野凱己

稽古と褒美の関係

阿辻　哲次（京都大学大学院　人間・環境学研究科　教授）

一昔前のお稽古ごといえばお茶やお花、ピアノ、それに料理や書道などと決まっていたものだが、最近はずいぶんバラエティにとんでいて、知り合いの女性は近いうちにベリーダンスの「お稽古」をはじめるという。

この「稽古」ということばは成立が古く、儒学の経典の一つである『書経』の冒頭に「曰若稽古」とあるのが出典である。しかし『書経』の文章は非常に難解で、伝統的な学問ではわずか数文字のごく短い文章を説明するだけにも、膨大な分量に及ぶ注釈がつけられた。そのことを皮肉って、この冒頭の四文字句を例として、「曰若稽古千万言」という。

「曰若稽古」という四文字のもっともオーソドックスとされる解釈では、「曰（ここ）に若（したが）いて古（いにし）えを稽（かんが）えるに」と訓読する。おそらく昔の物語を語る時の出だしの文句、つまり「今はむかし」に当たる表現で、ここで「稽」は「考える」という意味に解釈されている。

だから「稽古」とは、もともと古代の書物を読んで聖人の教えを学びとることを意味することばであった。しかし本を読んで「稽古」するのは退屈だから長続きしない。現実には人は、なにかの利益がなければなかなか「稽古」しないものだ。

後漢の儒学者であった桓栄は、皇太子の家庭教師に任命された時、自分の学生を集め、彼らの目の前に皇帝から頂戴した車や馬などを並べて「わしが今日までに陛下からいただいたさまざまなものは、すべて『稽古』のおかげである。だからお前たちもしっかり勉強するように」と訓示を与えたという。

「稽古」と褒美は、昔から不即不離の関係にあったようだ。

表現力が大切

寺本　蒼玄（京都大学書道部　技術顧問）

作品を創る時、大切な要素に「表現力」があります。

小学校では、国語の授業の中の一つとして「習字」の授業があり、正しい筆順や筆の使い方を習いました。中学校では、国語の中で「書写」と言って、楷書と行書を習います。さらに中国の古典を書き写す「臨書」を学びます。高校になって芸術科「書道」として独立した教科となり、様々な書体や「漢字」「仮名」「漢字仮名交じり文」「篆刻」等の書の分野や「文房四宝」と言われる用具、用材等を見て使いながら、書の世界を学ぶことになります。

書道では筆順は大事ですが、どのように表現するかは自由です。だから「表現力」によって作品は、良くも悪くもなります。

皆さんは作品を創る時、まず題材となる語句や詩歌を決めますね。そして作品の大きさを決め、書体を考え、用具、用材を決めていると思います。「表現力」はこの全てに関わっています。例えば、「風」という字をどう表現してみるか。そよ風から暴風までの風力の強さ、温度の違い等様々です。それらを表現する場合、墨の濃淡、線の太細、字の大小等を考えて、紙の大きさ、墨の滲み具合、線の強さ等を決めます。最後に観賞する人がそのイメージどおりに感じて観てもらえるように書くことです。

「表現力」を高める為に、いろいろなものに興味を持ち感動する感性を磨いていくことも大切だと思います。

臨書と創作

○臨書

過去の優れた筆跡を手本として書くことです。

臨書は段階や態度によって三種類に分けられます。最初のステップは、古典の字形や用筆に迫ろうとする、「形臨」と呼ばれるものです。形をまねることは、その古典に迫る最も近い方法です。

形がある程度まねられるようになってくると、次は古典に漂う雰囲気や運筆のリズムなど、形以外の要素に重点をおいてとらえようとする「意臨」の段階に進むことができます。このような、形以外の要素をとらえようとする態度は、真筆が歴史の中で失われ、模写したものや拓本しか残っていないような古典を臨書する際に求められることがあります。

古典をよく学んだうえで、書くときはそれを見ないで書く方法を「背臨」、臨書を重ねた後、臨書から学び取った古典の特徴や表現方法などを生かして、その古典とは別の字句を書くことを「倣書」といいます。この態度は創作につながるステップとなります。

書のあらゆる作品は、このような過去の作品から学ぶことを基盤としています。書道における基本と呼べるものが、臨書なのです。

○創作

自らの創意工夫による書の表現をいいます。

自分が伝えたいこと、表現したいことを明確にして、それに合った素材（語句や詩文）や表現方法を選び、試行錯誤しながら、自分の主張や個性が表れた作品になることを目指します。

臨書によって古典から得られる様々な表現方法を用いることで、作品に味わいや深みを出すことが出来るようになります。

○法帖

芸術作品として残された個人の書を、石や木に刻して拓本をとり、臨書や鑑賞に便利なように帖仕立てにしたものです。

今回の初夏書展では、各臨書作品の右横に臨書した箇所の法帖を掲示して、皆様にご覧いただけるようにしています。

作品鑑賞の参考に、こちらも是非ご覧ください。

書体について



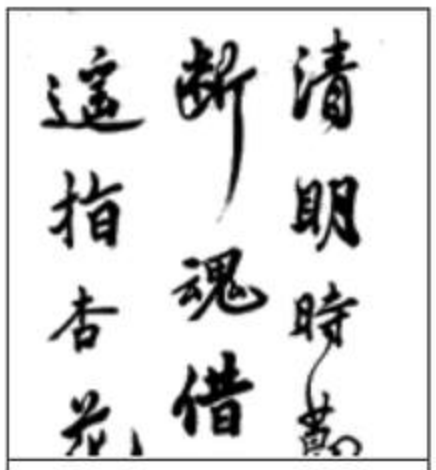
『篆書』
漢字のもっとも古い形で、現在使われている漢字のもとになった字体です。秦朝に小篆として統一されたものが一般的です。均一な太さの線が特徴です。



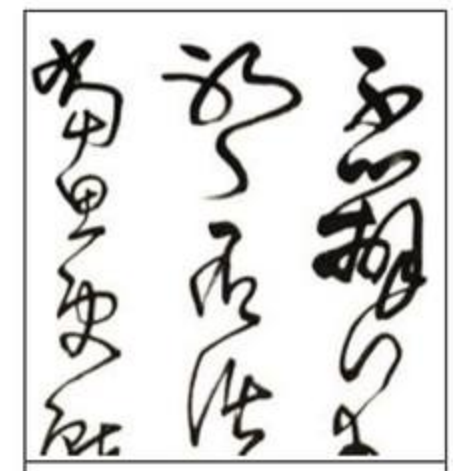
『隷書』
役人が複雑な字形だった篆書を早書きした際生まれた字体です。字形は横長で、時代が進むにつれ、線の終わりに独特な「波磔」がみられるようになります。



『楷書』
隷書からさらに記号化された、バランスの取れた字体です。その整った字形から、現在の漢字の基本とされています。



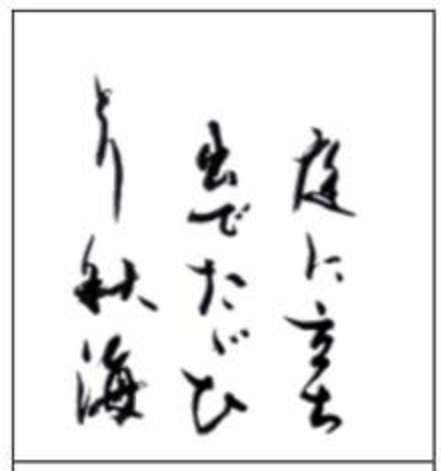
『行書』
隷書から発展した字体で、点画や線にしなやかさと変化がみられます。筆の速度や点画の流れが最も重視される書体といえます。



『草書』
隷書を早書きすることから発展しました。線の省略や筆順に変化があり、自由度の高い作品となります。文字から文字へと流れる「連綿」の美しさも魅力です。



『かな』
日本独特の表音文字です。草書の簡略化によって生まれました。漢字にはない流麗な筆致と同じ音を表す複数のかな、「変体仮名」による創意工夫が魅力です。



『調和体』
日本語の近代詩文や現代詩などを題材に、誰にでも親しみやすい書体で書いたものです。漢字かな交じりという日本語独自の特徴を生かした作品形態です。

作品一覧

技術顧問

寺本蒼玄　創作・『魚戯蓮葉間』　p10
　　創作・『夏緑新』　p10

二回生

阿部朱夏　臨書・王羲之『何如帖』　p26
今村朱里　臨書・趙之謙『楷書氾勝之書八屏』　p18
上村香鈴　臨書・『石鼓文』　p26
浦川真由子　臨書・文徴明『行書詩巻』　p26
小野日菜乃　臨書・智永『真草千字文』　p18
郡健一郎　臨書・褚遂良『文皇哀冊』　p19
小林由佳　臨書・空海『風信帖』　p28
米田景　臨書・王羲之『集字聖教序』　p29
阪井田有紗　臨書・『巻菱湖『贈池無絃』　p29
佐武千寛　臨書・『魏霊蔵薛法紹造像記』　p19
角裕介　臨書・米芾『蜀素帖』　p19
橘大輝　臨書・米芾『中秋詩帖』　p20
徳田寛生　臨書・丹羽海鶴『七言絶句杜牧詩』　p21
仲村康太郎　臨書・米芾『蜀素帖』　p13
　　創作・『なつかしき夏』　p30
中村直樹　臨書・『寸松庵色紙』　p30
橋詰都　臨書・呉譲之『宋武帝勅』　p14
原誠人　臨書・欧陽詢『皇甫府君碑』　p14
原田拓実　創作・『よにあれば』　p22
　　創作・『しのぶれど』　p31
平野晶子　臨書・顔真卿『多宝塔碑』　p21
前山隼人　臨書・黄庭堅『松風閣詩巻』　p32
　　臨書・『曹全碑』　p33
松尾和輝　臨書・褚遂良『孟法師碑』　p33

三回生

大池らら　臨書・伝定家筆『源氏物語　花散里巻』　p27
岡本晴香　創作・『らふぃおら』　p12
笠原知生　臨書・『隷書崔子玉座右銘』　p27
木下有羽　臨書・趙孟頫『玄妙觀重修三門記』　p28
　　臨書・文徴明『行書詩巻』　p28
清水麻友美　臨書・黄道周『五言律詩幅-濟寧聞警有作-』　p12
　　臨書・倪元路『七言絶句幅』　p30
下坂桃代　臨書・『般若心経』　p19
竹内春佳　臨書・空海『風信帖』　p20
立田俊也　半臨半創・『四季～shunka～』　p21
深谷拓未　創作・『漢書食貨志下句』　p15
　　創作・『還』　p32
堀場菜摘　臨書・褚遂良『太上老君常清静経』　p32
眞嶋優一　創作・『あまさかる』　p33
三村祐貴子　創作・『採菊』　p16
宮部大志　臨書・王羲之『集字聖教序』　p22

矢野凱己　創作・臨書・『雲のゆくへ』　p23
山口和樹　臨書・李文田・戴醇士・王寵『扇面三種』　p34
　　創作・趙之謙『劉熊碑』　p16
山崎夏野　臨書・王羲之『十七帖』　p36
山科直也　臨書・王羲之『集字聖教序』　p23
　　創作・『旅人　湯川秀樹の言葉より』　p36
渡辺顕　臨書・文徴明『行書詩巻』　p23

四回生

荒巻拓哉　臨書・王鐸『臨張芝帖』　p11
上西隆太　臨書・傅山『草書不覚二首之一詩』　p11
闇姝恒　創作・張先『天仙子』　p18
　　創作・『Beautiful Kyoto』　p27
島津七明　創作・『秘すれば花』　p29
宗哲仁　臨書・呉熙載『隷書文語横披』　p20
徳川鈴奈　創作・『江南旅情』　p13

修士一回生

片野裕太　臨書・李朝太祖『李朝太祖書』　p27
　　創作・『守拙』　p22
家倉凌　臨書・懐素『苦筍帖』　p34

修士二回生

小松聡子　臨書・趙之謙『撝叔遺墨』　p29

博士課程修了

藤井基弘　創作・張継『楓橋夜泊』　p31

合作

小林由佳・岡本晴香
　　臨書・米芾『紫金研帖』　p17
橋詰都・木下有羽
　　創作・篆刻『春夏秋冬』　p36
下坂桃代・眞嶋優一・矢野凱己
　　創作・『三十六歌仙』　p24
阿部朱夏・米田景・佐武千寛・原田拓実・前山隼人
　　創作・『畫陰静』　p24
笠原知生・山科直也・渡辺顕
　　創作・『原動力』　p24

新入部員合作　『書道部新入生四字熟語』　p25
二回生合作　『毎日二回生』　p25
三回生合作　『風薫る鴨川』　p25
全体合作　『無人島に持っていくならば?』　p25

作品紹介

賛助作品

技術顧問　寺本蒼玄　先生

○西来院作品



『魚戯蓮葉間』　古楽府

「魚は戯れる蓮葉の東から西へ、南から北へと。」

初夏になり池の中の蓮葉の間を自由に泳ぐ魚達。その溌剌とした様を趙之謙風に力強く表現してみました。

○禅居庵作品



『夏緑新』　韋應物

「詩に言う。積雨に時物変じ、夏緑園に満ちて新たなりと。」

夏らしくゆったりとスケールを大きく表現する為に八大山人風に仕上げました。

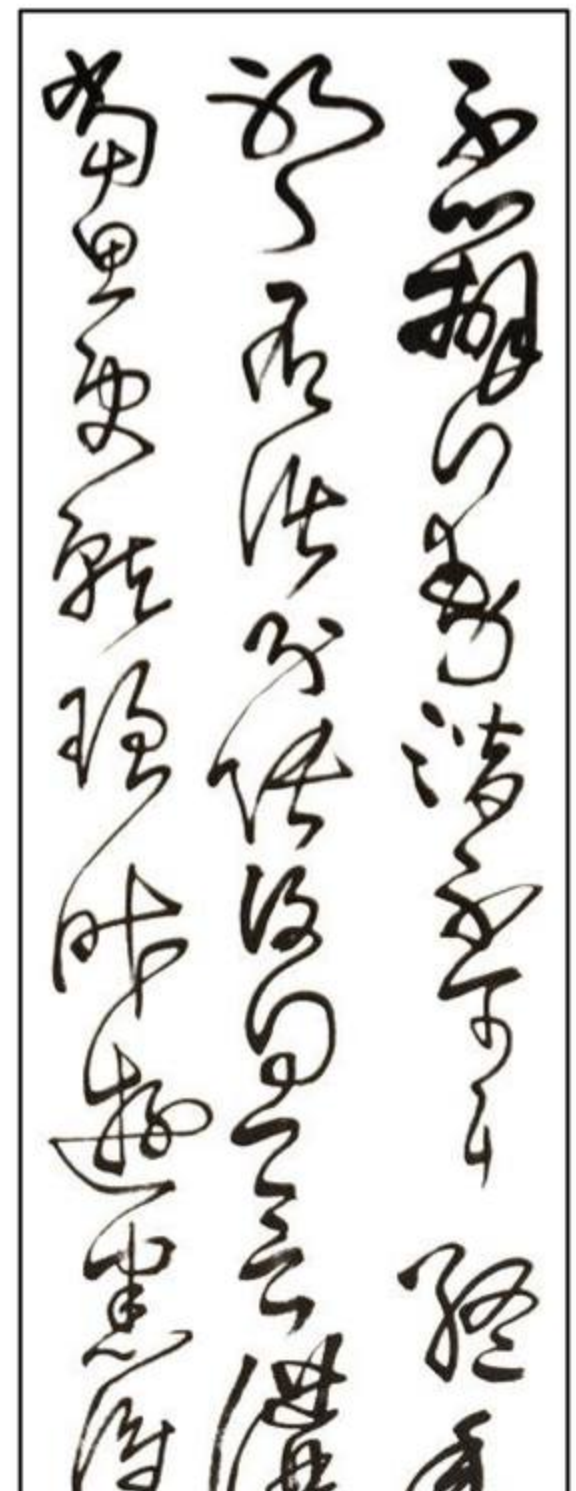
○西来院

1

荒巻拓哉　四回生
臨書　草書　王鐸『臨張芝帖』　二尺×八尺

「不辨行動潜不可耳終年此當治何理耶有諸分張復得一会講竟不竟還當思更就理昨遊悉誰同」

僕が初めて本格的に草書に触れたのは、四年前、高校の書道部で先生に勧められてこの作品を臨書したときでした。それ以来草書が好きになり、大学に入っても草書を中心に書道をやっています。王鐸や傅山を中心にいろいろな作品を臨書してきましたが、四年前よりは上達できているのでしょうか……。



2

上西隆太　四回生
臨書　草書　傅山『草書不覚二首之一詩』　二尺×八尺

「天地有腹疾、奴才蠱其中、神醫須聖武、掃蕩奏奇功、金虎亦垂象、寶雞誰執雄、太和休妄頌、筆削笑王通。不覺二首之一。山。」

これまで、王鐸、倪元璐、黄道周と明末清初の書家を臨書してきましたが、傅山は初めての出品になります。明から清へ、激動の時代を生きた偉人達のスケールの大きさを感じながらの臨書は、非常に楽しいものです。法帖から用筆法や章法を学びつつ、迫力ある作品を意識しました。



3

岡本晴香　三回生
創作　調和体　『らふぃおら』　二尺×八尺

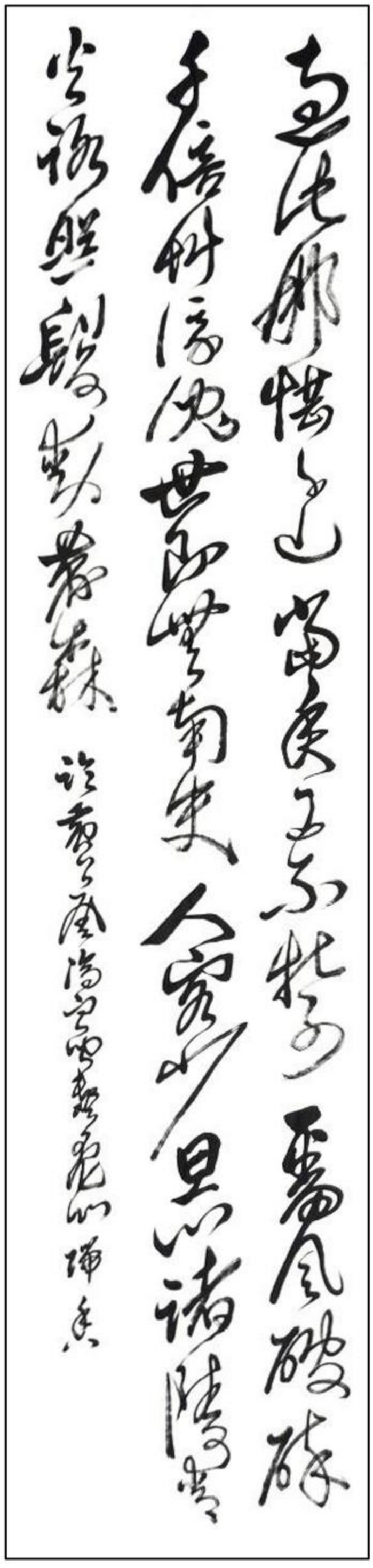
「何も正しくなんか無い誇れないと投げ捨てた大切な想い失わないで」
私は器用なだけの自分の字にずっとコンプレックスを抱いていました。この作品が、「変わりたい！変われない！」という気持ちを持って鬱々としている全ての人の心に響けば本望です。



4

清水麻友美　三回生
臨書　草書　黄道周『五言律詩幅-濟寧聞警有作』　二尺×八尺

「過此那湛遥當年已不禁一番風破碎千倍艸浮沈…」
初めての二八作品です。紙のサイズ感、文字の大きさなど苦労しました。連綿の美しさが表現出来ていれば良いなと思います。



5

徳川鈴奈　四回生
創作　行書　『江南旅情』　二尺×八尺



「楚山不可極帰路但蕭條海色晴看雨江聲夜聴潮剣留南斗近書寄北風遙為報空潭橘無媒寄洛橋」

気付けば卒業制作になりました。振り返ってみると今までではどの作品も悔いの残るところが多々ありました。卒業制作くらい満足のいくものが書けていてほしいものですが、追い込まれないと頑張れない性格なもので、今回は追い込まれる前から頑張れているか不安です。

6

仲村康太郎　二回生
臨書　行書　米芾『蜀素帖』　二尺×八尺



「龜鶴年壽齋。羽介所託殊。種々是靈物。相得忘形軀。鶴有沖霄心。龜厭曳尾居。以竹兩附口。相將上雲衢。報汝愼勿語。一語墮泥塗。」

宋時代の書家米芾の蜀素帖より、擬古と題された五言古詩を臨書した。詩文一つをまるまる臨書したのは、せっかくなら、読んでも意味のある一つの作品として完結させたかったからである。筆は玉蘭蕊を用い線に柔軟さを求めた。文字の大小や文字群は自分なりに構成してみたが果たしてどうであろうか。多様なご意見、ご批正をお待ちしています。

7

橋詰都　二回生

臨書　篆書　呉譲之『宋武帝勅』　二尺×八尺

「頃學尚癈弛。後進頽業。衡門之内。清風輟響。良由戎車屡警。…」

筆で書かれた篆書を書いてみたくてこの作品を臨書しました。始筆と終筆の忠実な再現がこの作品で最も苦戦した点であり、最も書き甲斐を感じた点でした。



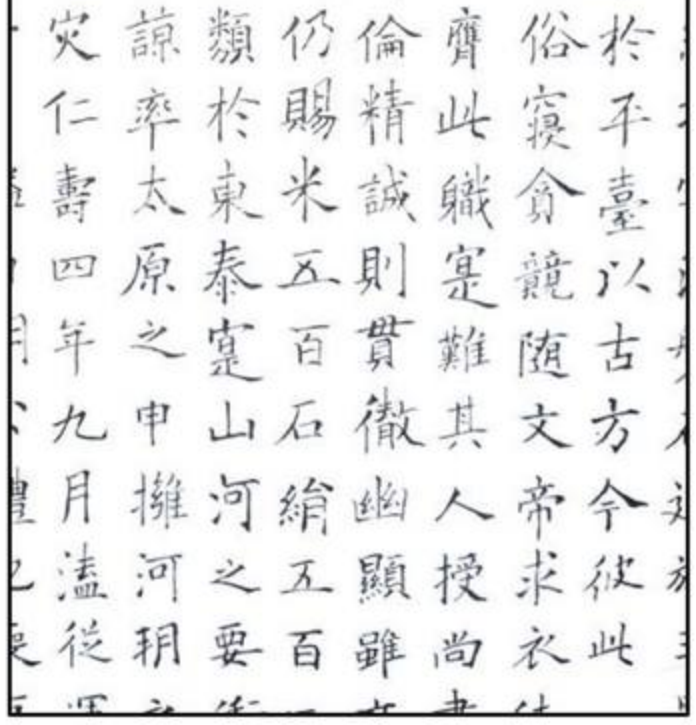
8

原誠人　二回生

臨書　楷書　欧陽詢『皇甫府君碑』　三尺×六尺

「随柱國左光祿大夫弘義明公皇甫府君之碑　銀青光祿大夫行太子左庶子上柱國黎陽縣開國公于志寧製　夫素秋肅殺勁草標於疾風叔世艱虞忠臣彰於赴難…」

隋の名臣皇甫誕を顕彰する碑。『九成宮』の後、詢晩年の書。鈴木翠軒曰く、「険勁痛快」なれど「温潤な一脈の流れがある」「唐の楷書のうちでは最初に学ぶべきもの」で、自身「十二年これを習った」と（『新説和漢書道史』）。……いつか、俗っぽくない字を書きたいものです。鍛錬と思って、不得手の楷書に胸を借りました。



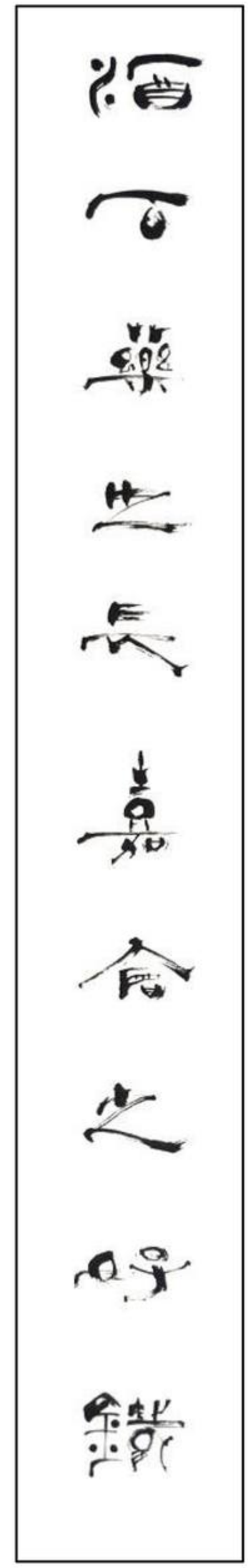
9

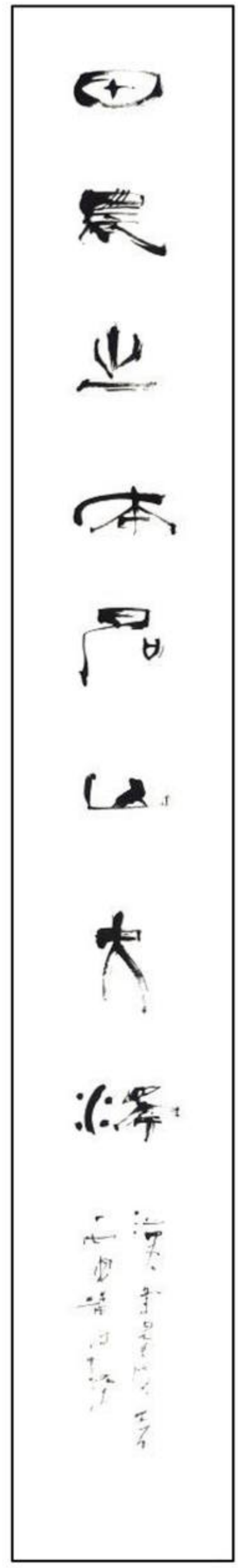
深谷拓未　三回生

創作　隷書　『漢書食貨志下句』　一尺×六尺　二連

「酒百薬之長、嘉會之好。鐵田農之本、名山大澤」

父に贈る





10

三村祐貴子　三回生
創作　行書　『採菊』　二尺×八尺

「結廬在人境而無車馬喧問君何能爾心遠地自偏採菊東籬悠然見南山気夕佳飛鳥相與還比中有真欲辯已忘言」

行の真ん中に一本線の通っている、力強い流れが見えるような作品を目指して書きました。



11

山口和樹　三回生
臨書　隷書　趙之謙『劉熊碑』　二尺×七尺

「大帝垂精接感篤生聖明子孫享之分原而流枝葉扶疏爵列土封候載徳相継」

全くの初心者で入部してから約一年半。趙之謙の力強さを追い求め、ただひたすら練習を重ねてきた。果たして副部長としての最後の出品に見合う作品に仕上がっただろうか。




蘇子瞻携吾紫金研去囑其子入棺吾今得


歙傳世之物豈可與清淨圓明本來妙覺眞

12

小林由佳　二回生　・　岡本晴香　三回生

臨書　行書　米芾『紫金研帖』　二尺×八尺　二連

「蘇子瞻携吾紫金研去囑其子入棺吾今得」

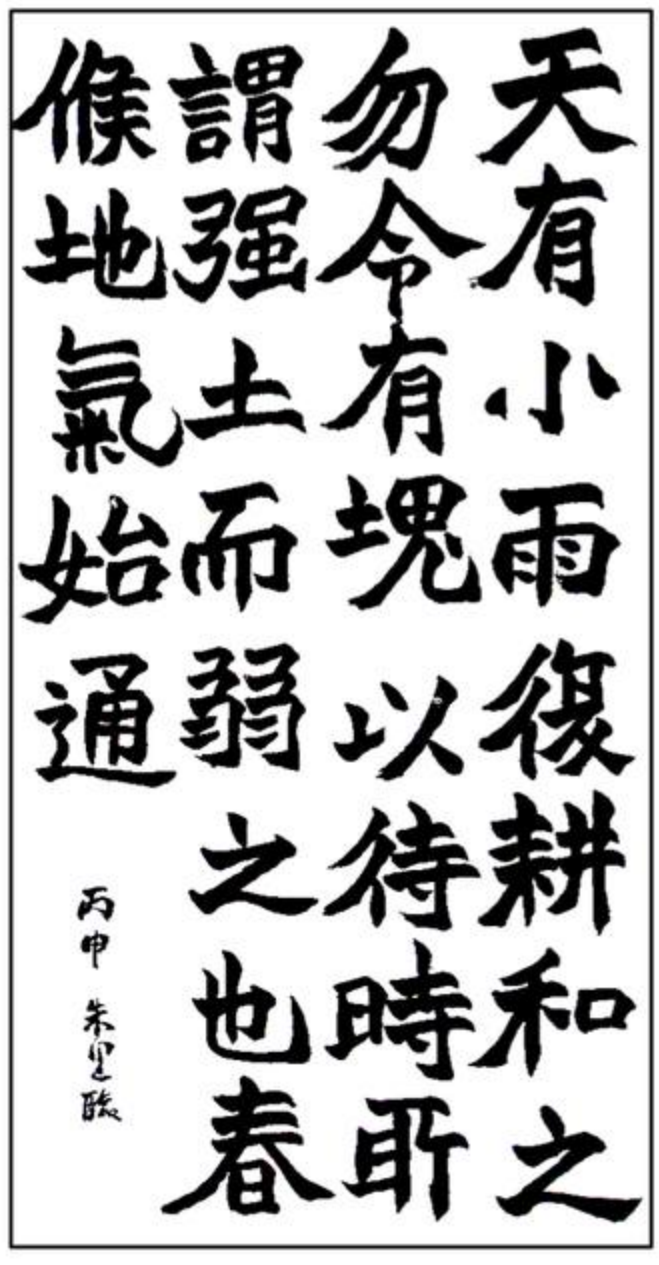
「歙傳世之物豈可與清淨圓明本來妙覺眞」

今回二人で合作をするにあたって気をつけたことは、形だけにとらわれず気脈の通った作品を目指すということです。羊毛筆特有のかすれやうねり、重厚感を上手く取り入れられるように心がけました。この合作から線の強さ・迫力を感じ取っていただければ幸いです。

13

今村朱里　二回生
臨書　楷書　趙之謙『楷書沼勝之書八屏』　全紙

「天有小雨復耕和之勿令有塊…」
前回の書展で、時間に追われあまり納得のいく作品を出品できなかったので、今回は時間をかけてじっくり練習しました。爽快かつ明るい雰囲気のある趙之謙の作品を心底気に入りました。



14

闇姝恒　四回生
創作　草書　張先『天仙子』　70cm × 35cm

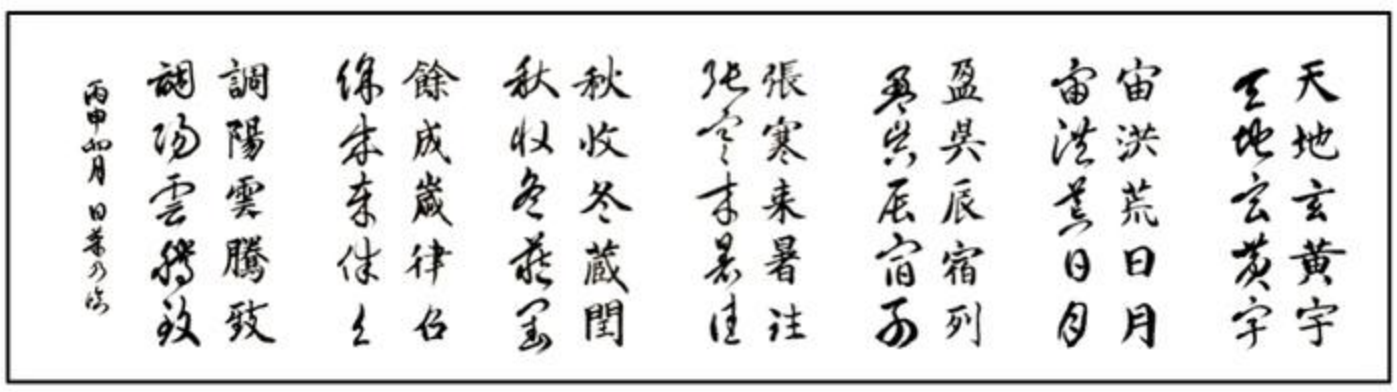
「水調數聲持酒聽、午醉醒來愁未醒。送春春去幾時回…云破月來花弄影。重重簾幕密遮燈、風不動、人初靜、明日落紅應滿徑。」
その「雲破月来花弄影（くもやぶれつききたりてはなかげをろうす）」の文章がとても好きで、滑らかな草書で書いてみました。

NO IMAGE

15

小野日菜乃　二回生
臨書　楷草　智永『真草千字文』　半切

「天地玄黄宇宙洪荒日月盈昃辰宿列張寒来暑往秋収冬蔵閏餘成歳律呂調陽雲騰致雨」
古くから習字の手本とされてきた千字文を、楷書と草書で記した作品です。楷書は文字の大小・線質を揃えることで、草書は文字ごとに縦横の長さに変化を出すことで、両者の違いを表現できるよう心がけました。



16　郡健一郎　二回生
臨書　楷書　褚遂良『文皇哀冊』　半切

「遠清徽方閟妥詒司存傳芳瓊宇其詞曰」
そんなにくずれていない行書を探していたら、結局楷書になってしまいました。法帖の柔らかい線を表現できるように練習したつもりです。ご批評よろしくお願いします。



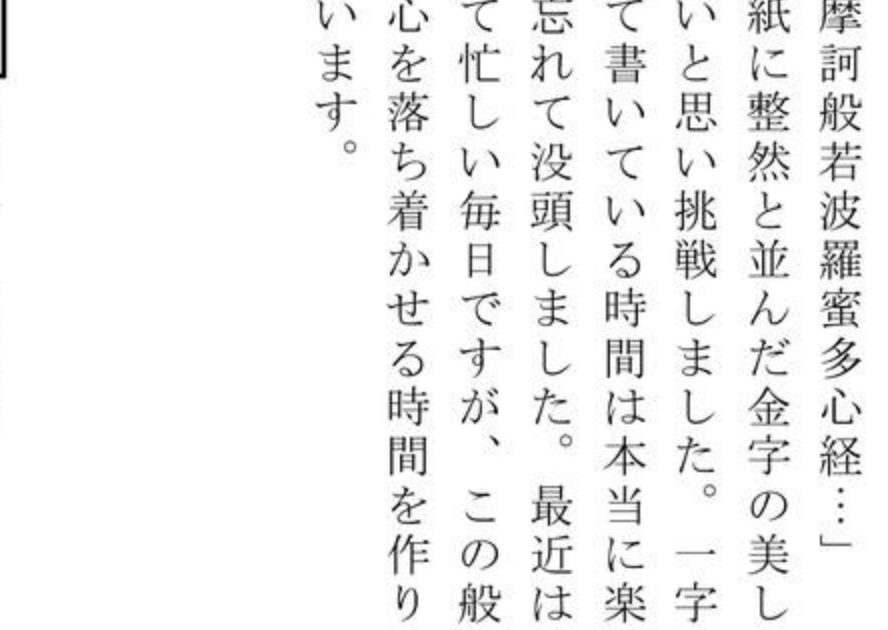
17　佐武千寛　二回生
臨書　楷書　『魏霊蔵薛法紹造像記』　半切

「衆形冈不備列顔乾祚興延万方朝貫願藏等挺三槐於孤峰秀九蘇於華菀芳再繁」
私は行書などをのびのびと書くのが好きで、楷書の法帖を選ぶといつも途中で後悔します。それでもまた書きたくなってしまう魅力がある、私にとって楷書はそんな書体です。



18　下坂桃代　三回生
臨書　楷書　『般若心経』　30cm×45cm

「摩訶般若波羅蜜多心経…」
紺紙に整然と並んだ金字の美しさを表現したいと思い挑戦しました。一字一字、集中して書いている時間は本当に楽しくて時間を忘れて没頭しました。最近は時間に追われて忙しい毎日ですが、この般若心経を見て心を落ち着かせる時間を作りたいと思っています。



19　角裕介　二回生
臨書　行書　米芾『蜀素帖』

「呉江垂虹亭作。断雲一片洞庭帆。玉鱸魚霜金破柑。好作新詩繼桑苧。垂虹秋色満東南。泛々五胡霜氣清…」
米芾独特のリズムと字形、全体のバランスを意識して書くように心がけました。字数が多い作品は不慣れで苦労しましたが良い経験になりました。



20

宗哲仁　四回生
臨書　隷書　呉熙載『隷書文語横玻』　半切横
「欧陽永叔游長壽山　見苔華繡成四字　曰神清之洞
中間流水潺々　果以」
いつの間にやら四回生。部の新陳代謝に抗うかの如く、今回も出品にこぎつけました。



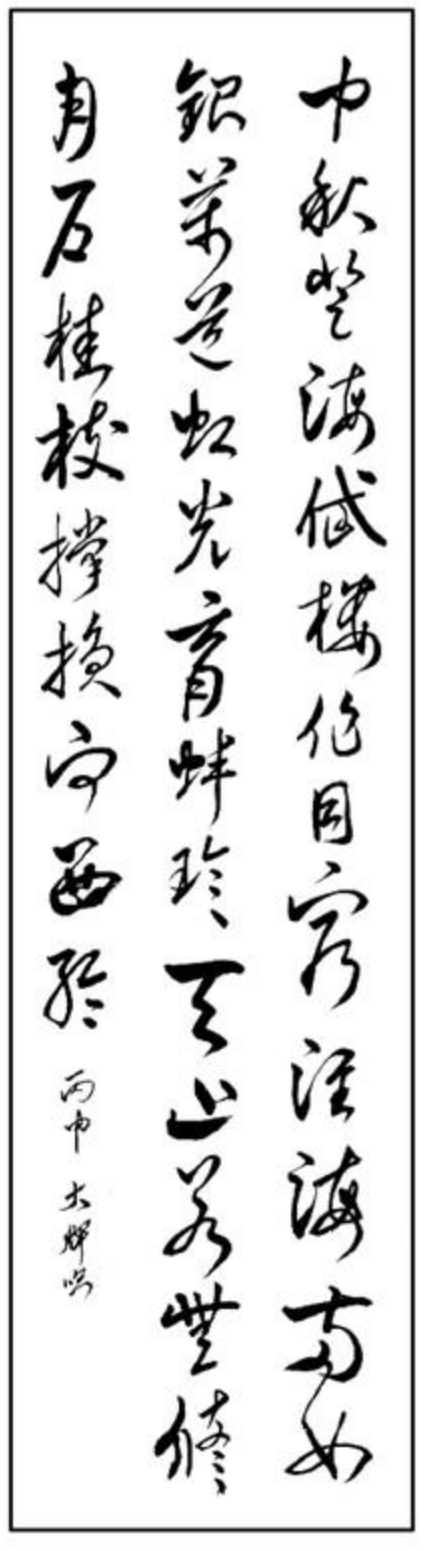
21

竹内春佳　三回生
臨書　行書　空海『風信帖』　半切
「風信雲書自天翔臨披之閲之如掲」
風信帖を臨書しました。今まで楷書をしていたので、行書作品をつくるにあたって筆の流れを特に意識して書きました。見て頂けると幸いです。



22

橘大輝　二回生
臨書　草書　米芾『中秋詩帖』　半切
「中秋登海岱樓作目窮淮海兩如銀萬道虹光育蚌珍天上若無修月戸桂枝撑損向西輪」
米芾には皇帝の端渓硯で屏風を書いた際に、「けがれてしまったこの硯を、私にください。」と言い、皇帝から硯が与えられると、墨で袖が濡れるほど舞い踊って感謝したという逸話があります。（「世界人物逸話大事典」参考）　その書道への熱意に自らの情けなさを痛感させられました。何事にも貪欲でありたいものです。

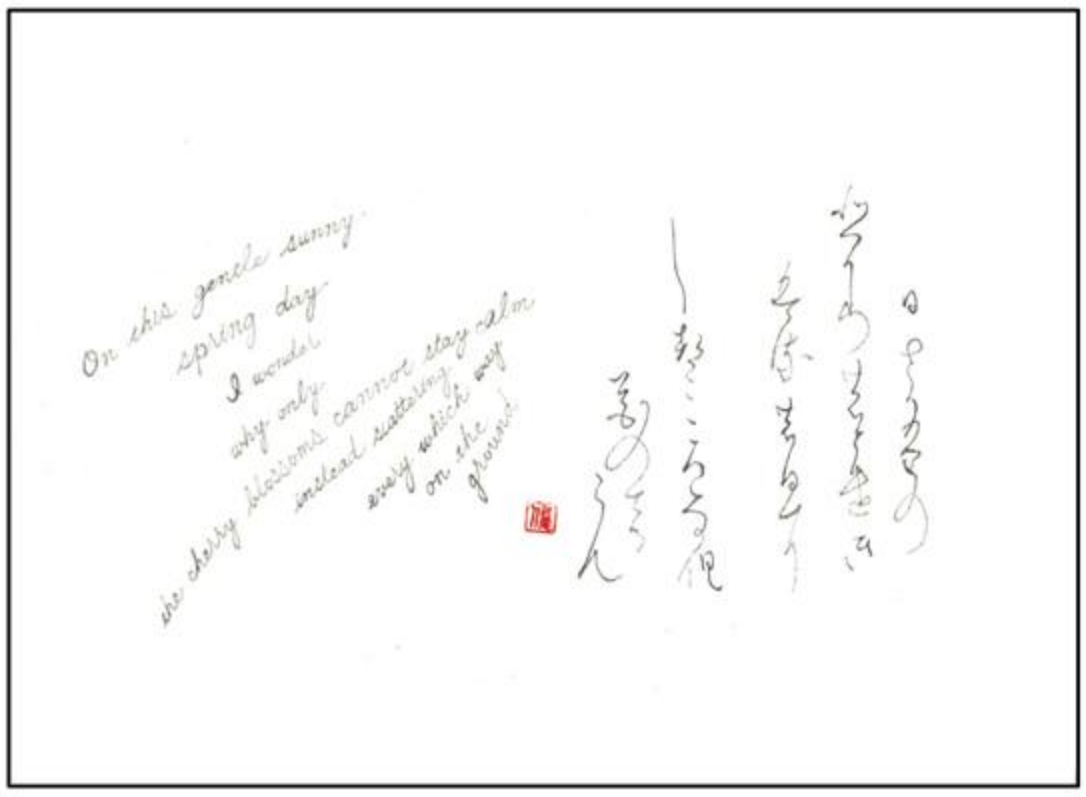


23

立田俊也　三回生
半臨半創　かな・英字
阪本桃水『四季～shunka～』　半紙横　二枚

「ひさかたの(中略)ちるらむ
On this gentle (中略) on the eyes.」
はるすぎて(中略)香具山
It seems that (中略) stun the ground.

前回の冬樟展の反省を活かし、かなと英字がより調和するように工夫を凝らしました。
まだ荒削りな作品だと自分でも感じています、この作品を見て「自分もあんな作品を作りたい」と思ってくれる人が出てきますように…。

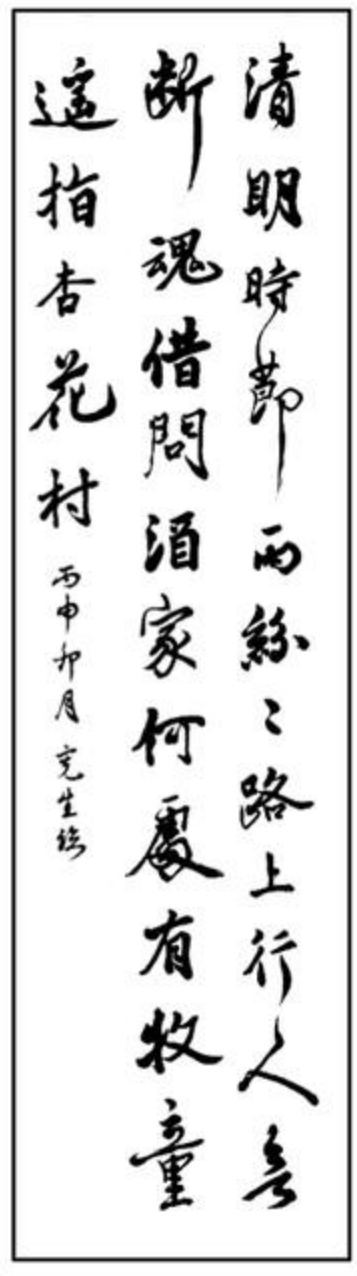


24

徳田寛生　二回生
臨書　行書　丹羽海鶴『七言絶句杜牧詩』　半切

「晴明時節雨粉々。路上行人欲断魂。借問酒家何処有。牧童遥指杏花村。」

今回は楷書、行書、若干草書っぽい感じのある作品を臨書しました。時と節、行と人の連綿や断の最後の一画はやはり難しかったですが、それ以外の字においても字間や行間のバランスや微妙に字が歪んでいたりして何度も書くうちにこの作品の奥深さを感じました。温かい品評の程お願いします。



25

平野晶子　二回生
臨書　楷書　顔真卿『多宝塔碑』　半切

「粤妙法蓮華諸佛之秘蔵也多寶佛塔」

書道部に入部して初めての作品展です。顔真卿の力強い筆遣いに惹かれ、この作品を書きたいと思いました。レベルの高い先輩方のご指導や同回生からの刺激を受けながらの練習はとても充実していて、幸せな時間でした。これからますますステップアップしていけるよう精進致しますので、ご批評よろしくお願いします。



26

原田拓実　二回生
創作　かな　『よにあれば』　全紙

「よに(尓)あれ(礼)ば(者)ことしの(農)春の花もみ(見)つうれしき(支)も(毛)のは(盤)いのちなりけ(希)りわが(可)やどのそ(所)ともにた(堂)て(氐)る(流)な(奈)らの(能)は(者)のしげ(希)み(三)に(尓)すゝむ夏は(八)きに(尓)け(介)り(里)」

春の句と夏の句を一首ずつ選んで書いてみました。これまで大字かなは半切サイズでしかやったことがなかったので、構成に頭を悩ませましたが、創作の面白さも感じることが出来ました。これからも色々なサイズの紙に挑戦していきたいと思います。



27

宮部大志　三回生
臨書　行書　王羲之『集字聖教序』　半切

「松風水月未足比其清華仙露明珠」

最近書道を見るのは好きです。



28

家倉凌　修士一回生
創作　楷書　『守拙』　40cm×60cm

「守拙」

ふところの広い字が好きです。甲骨文字から小篆成立の過程を鑑みるに、漢字というものの本懐は明朝体の成立によって既に遂げられているように思います。余白を美しく見せたい。結局のところ書道とは文字の長い歴史の余白のようにも思えます。手書きの不完全さ、無駄、無常がいつまでも守られていてほしいと思います。



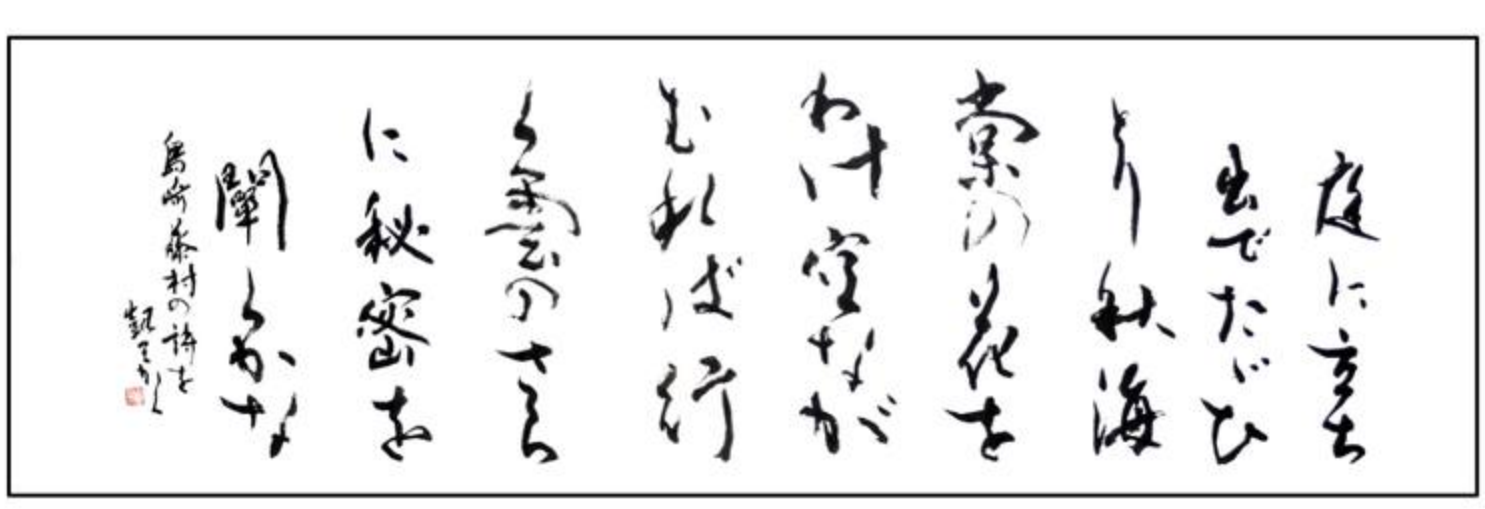
29

矢野凱己　三回生

創作　調和体『雲のゆくへ』　二尺×六尺横

「庭に立ち出でたゞひとり秋海棠の花をわけ　空ながむれば行く雲のさらに秘密を闡くかな」

かな風調和体に挑戦。変体仮名を使いたいのをこらえて極力読みやすいように努めました。淡々とした冒頭からの躍動感ある中央部に注目してご覧ください。



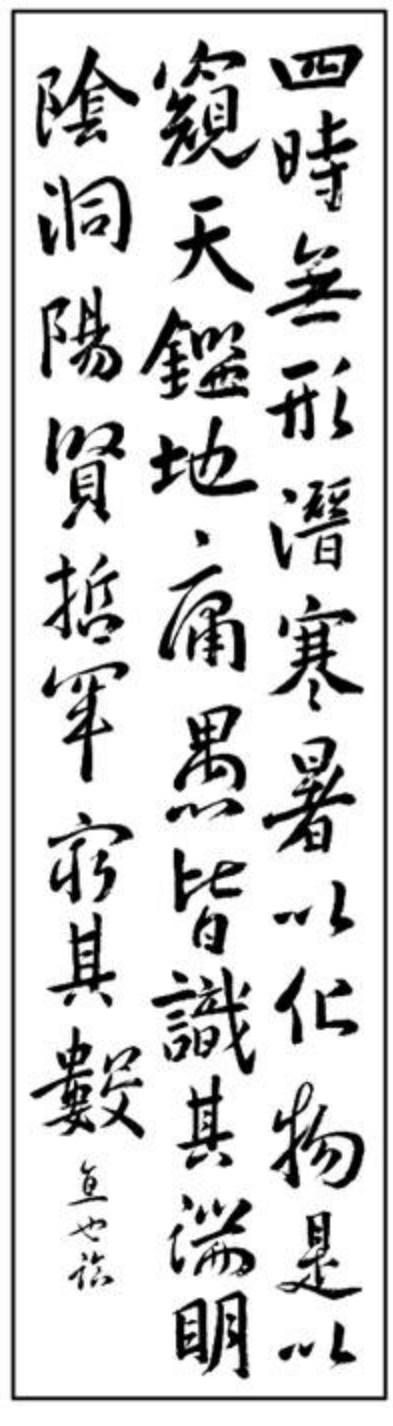
30

山科直也　三回生

臨書　行書　王羲之『集字聖教序』　半切

「四時無…」

初心忘れるべからずということで基本に忠実に書き抜こうとは思っていたのですがいかがでしょうか？



31

渡辺顕　三回生

臨書　行書　文徴明『行書詩巻』　半切

「雲巖四月野棠開無　數清陰覆緑苔」

独特の揺れた線や字のバランス、全体のバランスが難しいが、慣れてきてリズム良く書くとなんとなく文徴明の筆の動きが再現できているような気がした。

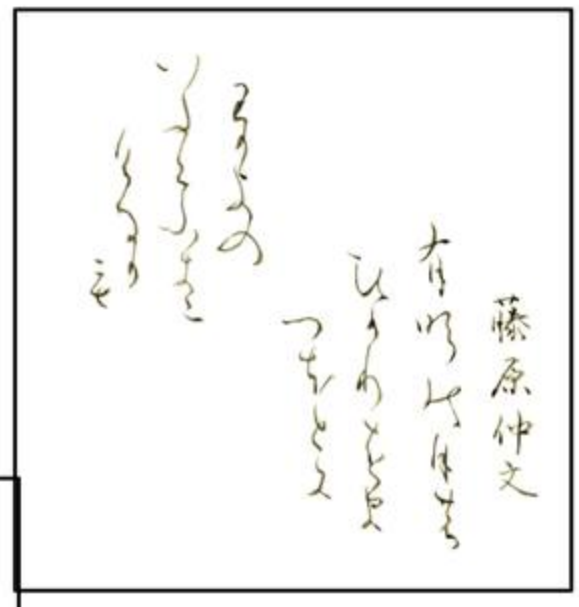


32

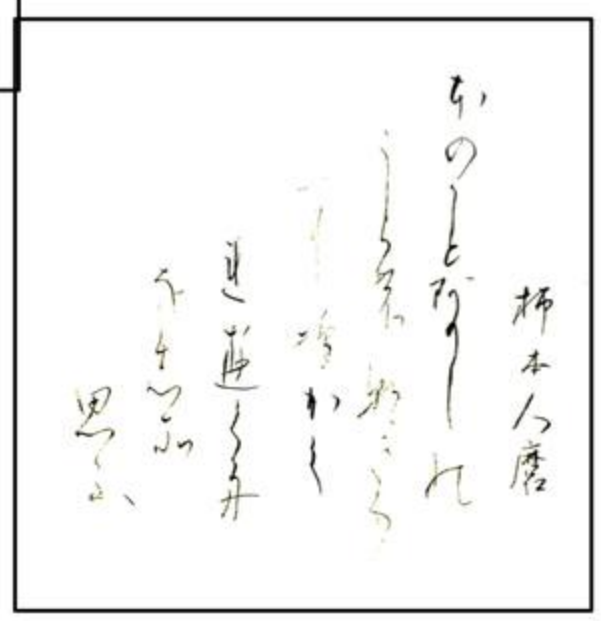
下坂桃代・眞嶋優一・矢野凱己　三回生
創作　仮名　『三十六歌仙』　衝立（150cm×150cm）

「有明の　月の光を　待つほどに　我が世のいたく　ふけにけるかな／藤原仲文
ほのぼのと　明石のうらの　朝霧に　しまがくれ行　舟をしぞ思ふ／柿本人麻呂
花の色は　移りにけりな　いたづらに　わが身世にふる　ながめせしまに／小野小町
（他三十三首）」

仮名を愛する三人による合作。同じ仮名でも書く人によって雰囲気が全然違う。この作品でも三人がそれぞれの個性を出し合って、でもけんかしない。それが仮名の魅力です。







33

阿部朱夏・米田景・佐武千寛・原田拓実・前山隼人　二回生
創作　楷行草篆隷　『晝陰静』　全紙横

「晝陰静」
五種類の書体で書きました。書体ごとの違いをお楽しみください。

34

笠原知生・山科直也・渡辺顕二　三回生
創作　調和体　『原動力』　全紙横

「燃える情熱こそ原動力」
書道でも学問でも純粋な楽しみでもその行動原理は単純に「やりたい」という意志でありたい。そんな力強さを映し出せたでしょうか？

35 新入部員合作
創作 『書道部新入生四字熟語』 全紙 二連
書道部新入部員が筆伝で自分たちの考えた四字熟語を書きました。

36 二回生合作
創作 『毎日二回生』
私たち二回生は名言から迷言まで多種多様な言葉を集め、日めくりカレンダーを作りました。大学生活も二年目に突入し、少し成長した姿を温かい目でご覧ください。

37 三回生合作
創作 『風薫る鴨川』
タイトルの風薫る鴨川は自分たちが一回生の最初の合作で作った作品です。あの頃とメンバーも変わっていますが、この街で、この書道部で積み重ねたものをここに表現しました。

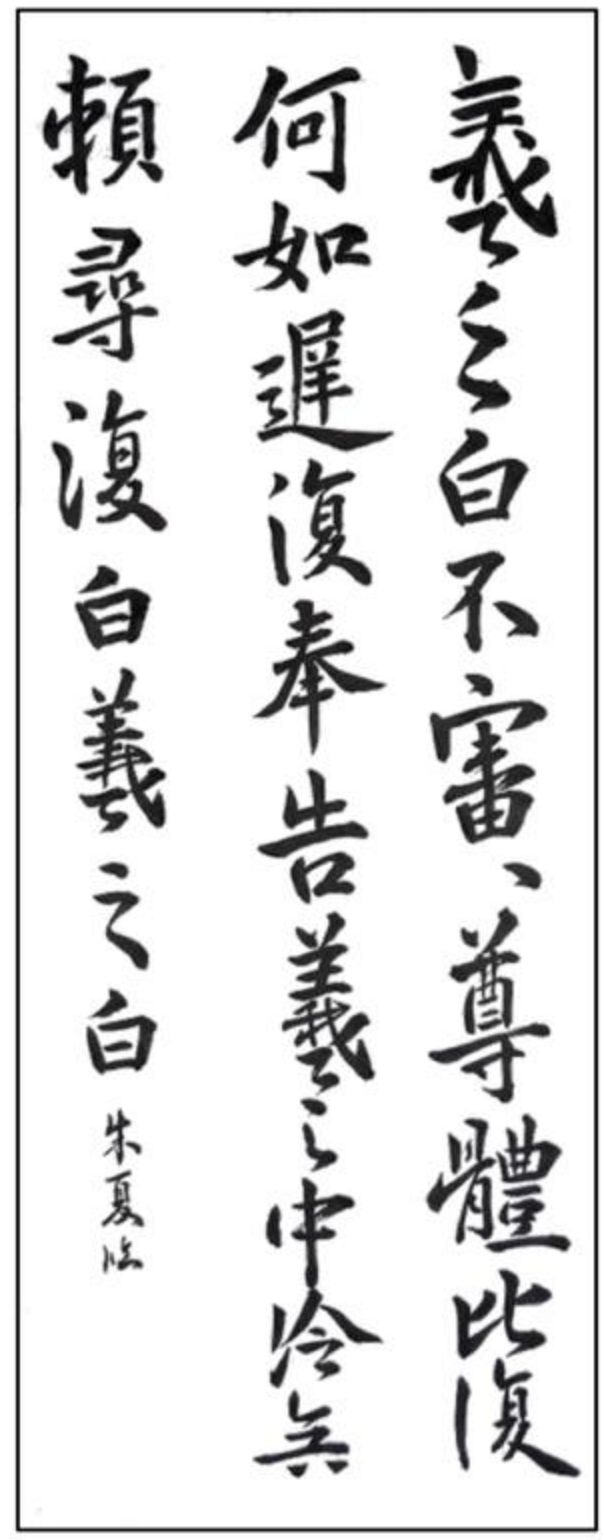
38 全体合作
創作 『無人島に持っていくならば？』
今回の全体合作では無人島にもっていくならば何か？をテーマにしました。あえてシチュエーションは縛っておらずどんな状況を思い描いたのかも含めて面白い回答が並ぶことを期待しています。

○禅居庵

39

阿部朱夏　二回生
臨書　行書　王羲之『何如帖』　聯落

「羲之白。不審尊體比復何如。遅復奉告。羲之中冷無頼。尋復白。羲之白。」さらっと書ける行書が書きたいと思っていたときに「ほとんどの書家は王羲之から影響を受けている」という話を聞き、されば王羲之の書からスッとしながらももっちりとした線質に惹かれこの作品を選びました。如何せん隷書の癖が抜けず、さらりと書けるとはなりませんでしたが、雰囲気が伝わればと思います。



40

上村香鈴　二回生
臨書　篆書　『石鼓文』　半切

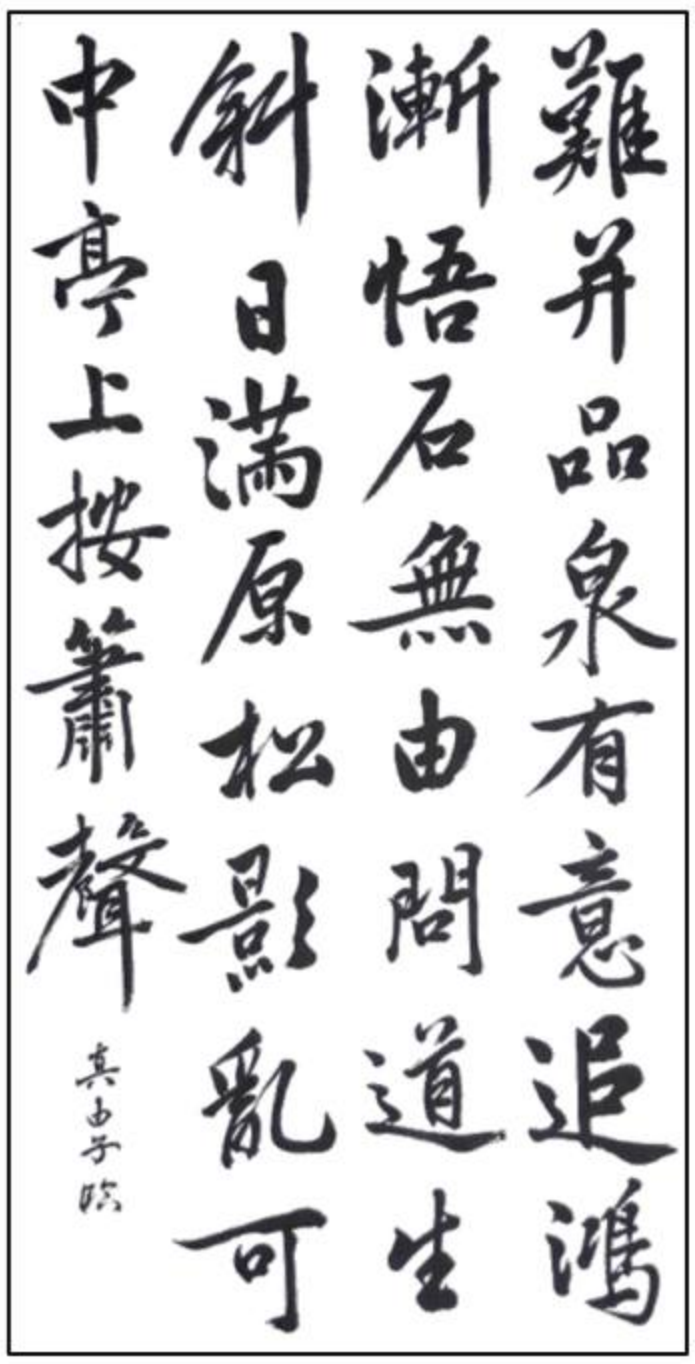
「左驂旛々右驂騝々」もともと篆書という字体が好きであり、今回は篆書の作品に取り組むことにしました。このお手本を見たときに、馬編の字がとても多く、うまうましているなと思い、私はこの作品をうまうまと名付けそう呼んでいます。私も馬が颯爽と駆けていくように自分の人生を爽やかに駆け抜けていきたいです。



41

浦川真由子　二回生
臨書　行書　文徴明『行書詩巻』　全紙

「難并品泉有意追鴻漸悟石無由問道生斜日満原松影亂可中亭上按簫聲」すっきりとした字を書きたいと思い文徴明を選びました。



42

闇姝恒　四回生
創作　行書　『Beautiful Kyoto』　展示ポストカード

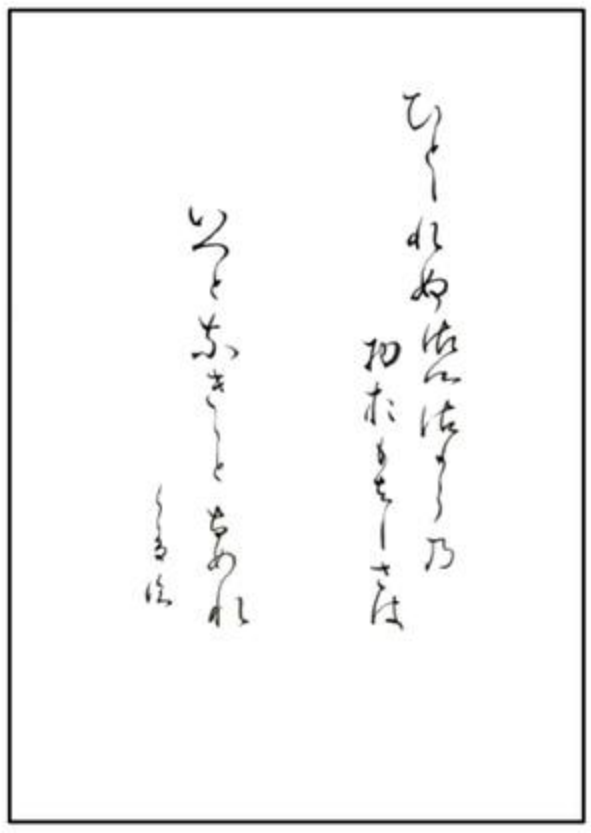
「京都の名所」
やはり京都が好きです！

NO IMAGE

43

大池らるる　三回生
臨書　かな　伝定家筆『源氏物語　花散里巻』冒頭　半紙

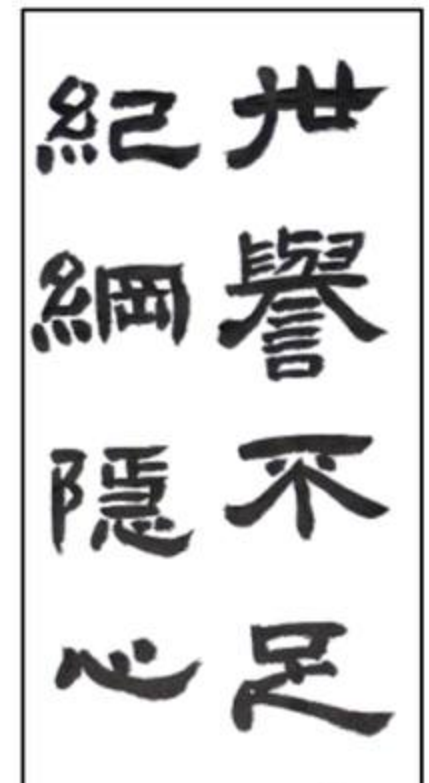
「人知れぬ御心づからのもの思はしさは何時となきことなめれど…」
花散里（はなちるさと・三の君）は源氏とは忍び逢うこともあった仲だったものの、気の多い源氏の性格もあり、半ばほったらかしの状態が続いていたが、ふと思い出して訪ねて行く。伝定家筆の字は線の強弱が美しく、書体の動を感じさせる流れが素敵だと思いながら書きました。



44

笠原知生　三回生
臨書　隷書　鄧石如『隷書崔子玉座右銘』　半切

「世誉不足慕惟人為紀綱隠心而後」
書家の隷書を書くのは初めてでした。碑文とは違い筆による生き生きとした線に魅力を感じ、どのように筆を動かしたのか巡らせながら書くのは勉強になりました。



45

片野裕太　修士一回生
臨書　行草　李朝太祖『李朝太祖書』　半切

「御筆逸少當年其筆何予今望八一枝柳」
長い縦画がいいなあと思って選びました。流れるように筆が進んでいくような雰囲気を目指しました。

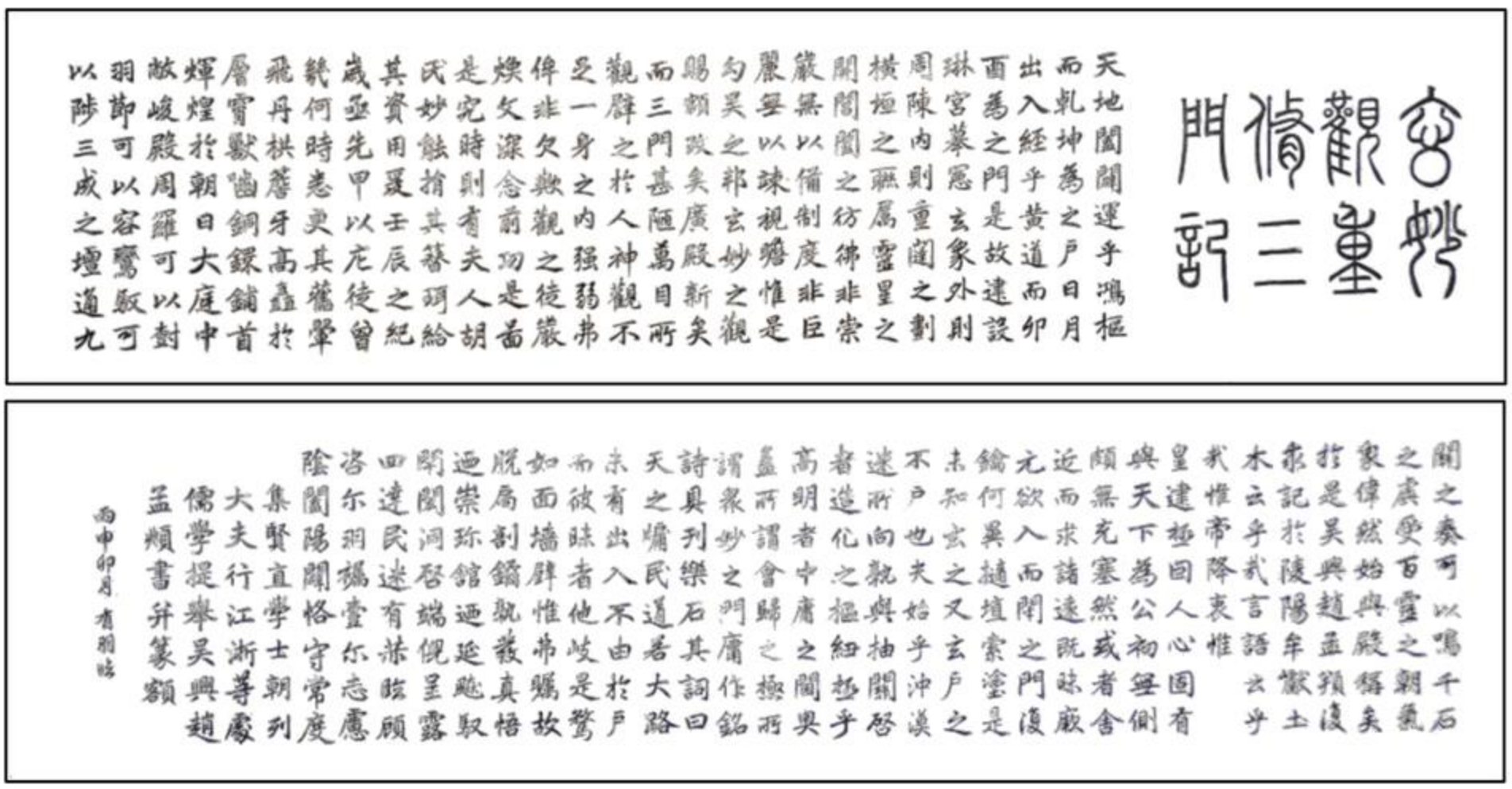


46

木下有羽　三回生

臨書　楷書　趙孟頫『玄妙觀重修三門記』　半切　二連

「玄妙觀重修三門記　天地闔闢運乎鴻樞而乾坤為之戸日月…」ずっとやりたかった多字数に挑戦。コツコツ書きました。



47

木下有羽　三回生

臨書　行書　文徴明『行書詩巻』　半切

「春事不嫌三月盡勝遊剛喜四難幷品泉有意」すっきりとかっこいい書風に惹かれて臨書しました。半切二行というシンプルな構成ですが書く線を書くことを心掛けました。半切二行というシンプルな構成ですが書くほど改善点が見つかり、書道の難しさを再認識させられた作品です。

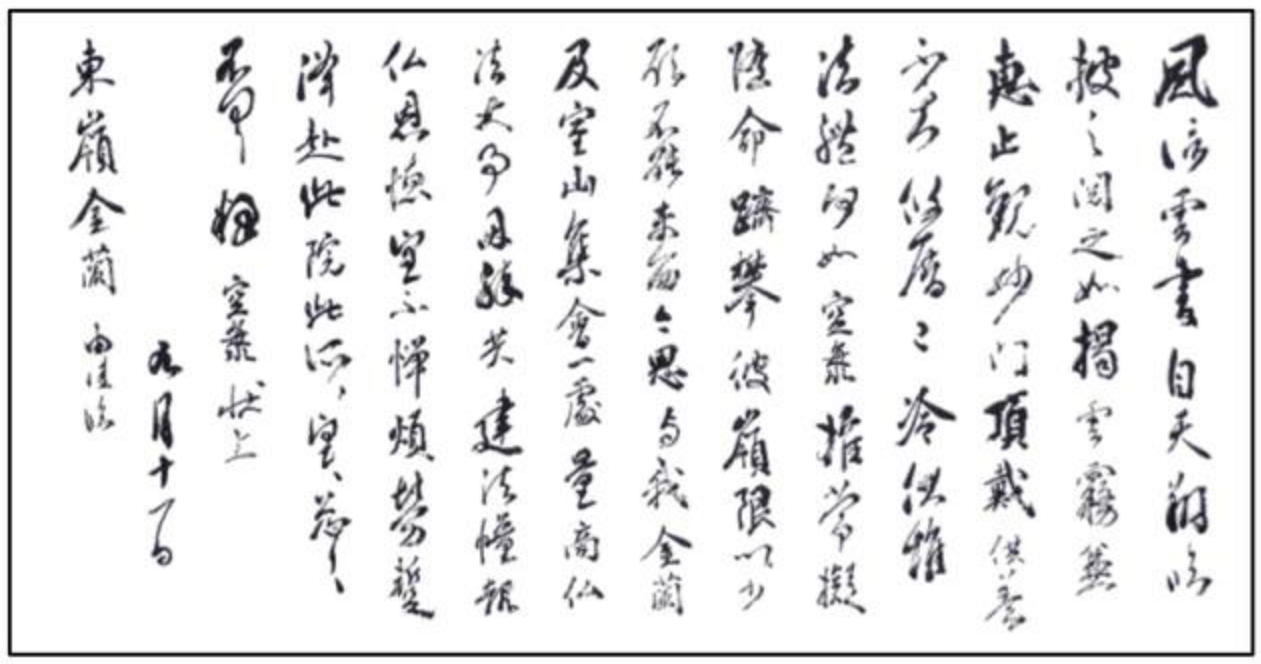


48

小林由佳　二回生

臨書　行書　空海『風信帖』　全紙

「風信雲書自天翔臨被之閲之如掲雲霧兼…」昨年東寺で風信帖が公開されていた際に実物を見て感動し、今回臨書することを決めました。大小、細太、軽重様々な字が混在してるけれど全体として調和のとれている、そんな作品を目指しました。ご批評よろしくお願いいたします。



49

小松聡子　修士二回生

臨書　隷書　趙之謙『撝叔遺墨』　直径 20cm 程

「徳至八方 則祥風至 徳至山稜 則景雲出 澤出神馬 山出根車 河出黒月」

お煎餅を載せよか、焼き魚を載せよか、悩むなぁ…。そんな感じの作品に仕上がっていればいいなと思います。



50

米田景　二回生

臨書　行書　王羲之『集字聖教序』　半切

「玄奘法師者法門之領袖也多懐貞敏早悟」

前回は楷書の作品を書き、今回は行書の作品を書きました。行書を書いてみて、やっぱり楷書の方が好きなことを確信しました…。今度は楷書か隷書になりそうです。



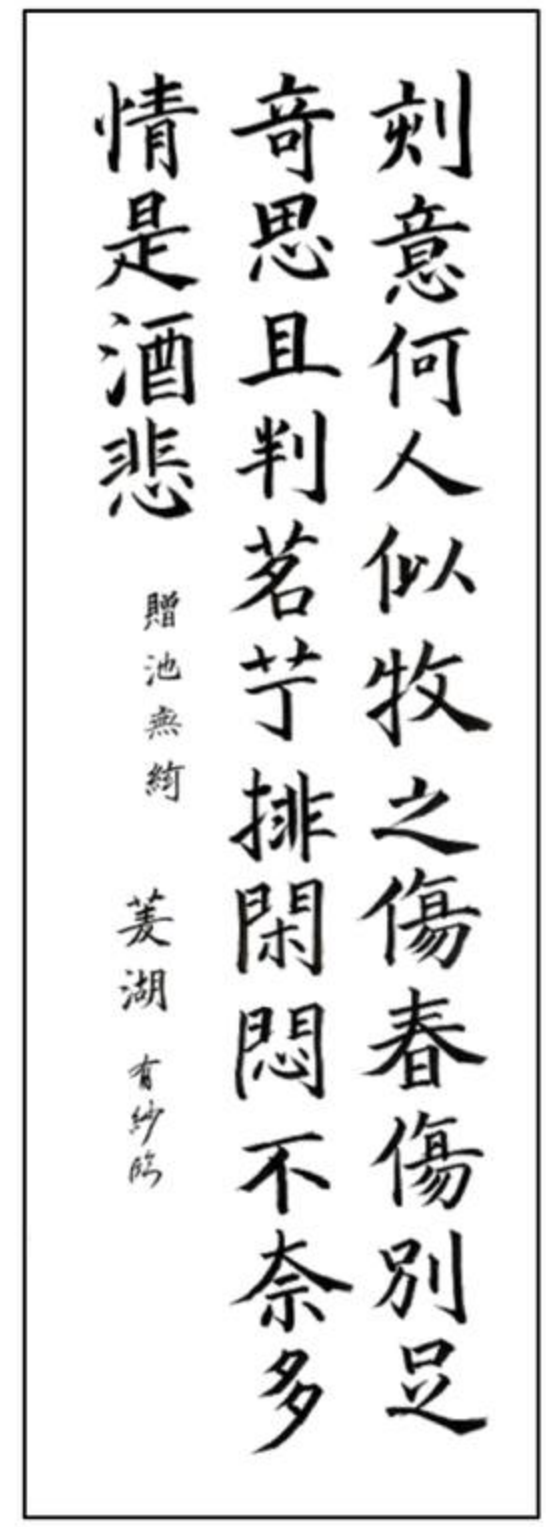
51

阪井田有紗　二回生

臨書　楷書　巻菱湖『贈池無絃』　全紙三分の二

「刻意何人似牧之傷春傷春別足奇思且半茗芋排閑悶不奈多情是酒悲」

法帖の爽やかさに惹かれ書き始めましたが、迷わず筆を運べるほどの技量のない私には難しいものでした。精進します。



52

島津七明　四回生

創作　調和体　『秘すれば花』　89mm×127mm

「秘すれば花」

秘めるからこそ花になる。



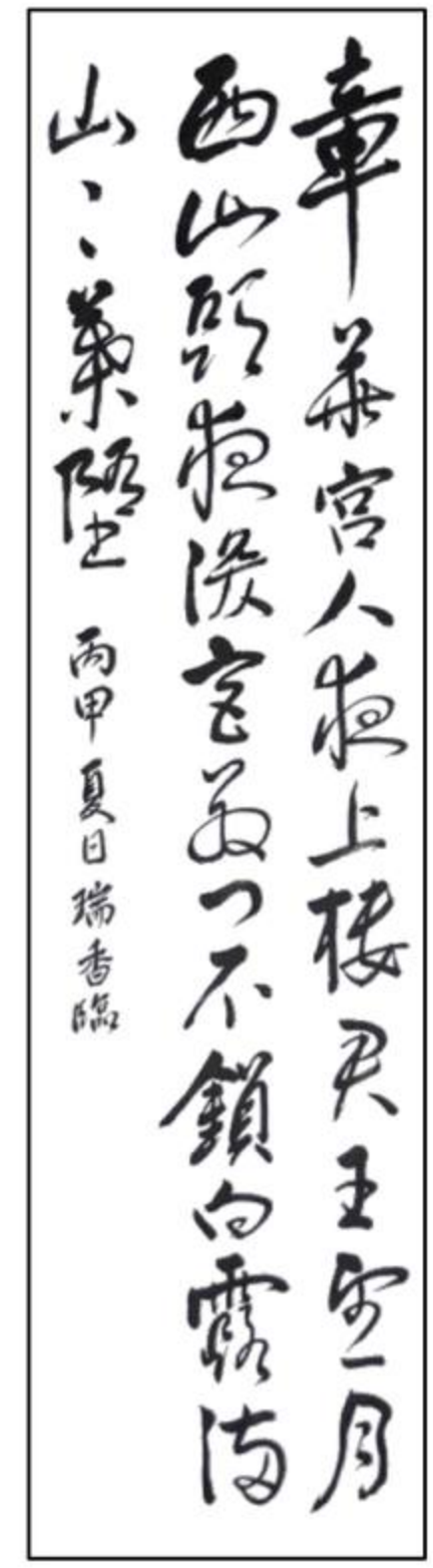
53

清水麻友美　三回生

臨書　行草　倪元路『七言絶句幅』　聯落

「章華宮人夜上樓君王望月西山頭夜深宮殿門不鎖白露滿山山葉墮」

独特の掠れを出すのが難しかったです。



54

中村直樹　二回生

臨書　かな　『寸松庵色紙』　寸松庵色紙　六枚

「む（无）めのか（可）をそ（所）でに（尓）うつしてとめたらは（盤）るは（者）す（春）ぐともか（可）たみな（那）らま（万）し（志）」　他五枚

今回はじめてかなの臨書をしました。個人的に構成が素晴らしいと思った六枚を選びましたが、きれいな線がなかなか出ずに苦労しました。至らない所も多いですが、これからも練習を続けていこうと思います。

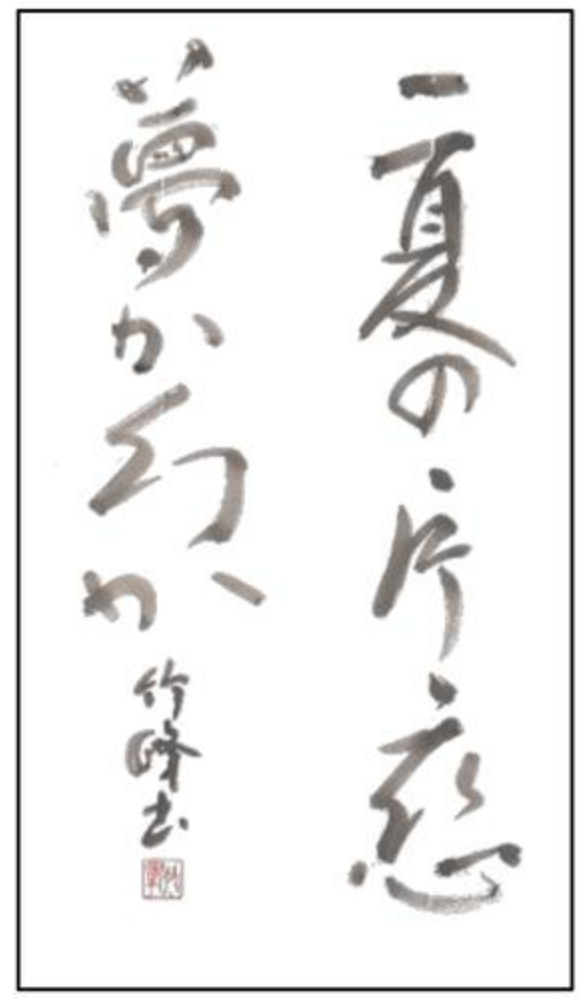
55

仲村康太郎　二回生

創作　行書　『なつかしき夏』　半切二分の一

「一夏の片戀夢か幻か」

頭にふっと浮かんだ言葉をさらっと書き付けた。言葉にふさわしく、あっさりした平淡な作品がいいだろうと思って、明快で見やすい表現にした。墨はやや茶系のを磨ってほどほどに薄め、山猫の筆で書いた。自作の文を作品にするのは始めてであるが、今後もこのように、下手で構わないから書の文学性も大事にしていきたい。



56

原田拓実　二回生

創作　かな　『しのぶれど』　色紙

「し(志)のぶれ(礼)どいろに(尓)いでにけ(希)りわが(可)こひ(飛)は(八)ものやお(於)もふ(婦)と人の(農)とふま(万)で」

ある映画の予告に感化されて「しのぶれど…」の歌を書いてみました。現代にも通ずる甘酸っぱい？恋の歌ですが、恋心に限らず自分の気持ちも他人の考えていることも分からないことの方が多いと感じる今日この頃です。



57

藤井基弘　博士課程修了

創作　楷書　張継『楓橋夜泊』　全紙

「月落烏啼霜滿天江楓漁火對愁眠姑蘇城外寒山寺夜半鐘聲到客船」

一九九四年の夏約一か月間、アメリカのミネソタ州のコンコルディア言語村に日本語を教えに行った。そこでは、授業以外に放課後のクラブ活動で書道を教える羽目になった。それがキッカケで書道教室に通うようになった。その後、蘇州に、二〇〇〇年に約二週間書道を勉強しに行った。その時、寒山寺を訪れたという縁が今回の作品になった。



58

深谷拓未　三回生
創作　草書　『還』　全紙

「還」
ただ勢いに任せている訳ではありません。冷静さあってこそ、勢いは引き立つものです。



59

堀場菜摘　三回生
臨書　楷書　褚遂良『太上老君常清静経』　巻子

「太上老君常清静…」
字の上達と精神力の向上を目指してこの作品を書きましたが、どちらもまだまだのようです。


太上老君常清靜經
老子曰大道無形生育天地大道無情運行日月大道無名長養萬物吾不知其名强名曰道夫道者有清有濁有動有靜天清地濁天動地靜男清女濁男動女靜降本流末而生萬物清者濁之源動者靜之基人能常清靜天地悉歸夫人神好清而情擾之人心好靜而慾牽之常能遣其慾而心自靜澄其心而神自清自然六慾不生三毒消滅所以不能者爲心未澄也慾未遣也能遣之者内觀其心無其心外觀其形形無其形遣觀其物無其物三者既悟唯見於空觀空亦空無所空所空既無無無亦無無無既無無湛然常寂寂無所寂慾生能生慾既不生即是真靜真常應物真常得性常應常靜常清靜矣如此真靜漸入真道名爲得道雖名得道實無所得爲化衆生名爲得道能悟之者可傳聖道

60

前山隼人　二回生
臨書　楷書　黄庭堅『松風閣詩巻』　半切　四連

「依山築閣見平川夜闌箕斗插屋椽我来名之意適然老松魁梧數百年斧斤所赦今參天風鳴媧皇五十弦…」
いつか全臨してみたいと考えていたところこの作品に出逢いました。多字数の作品は時間がかかり疲れますが、書き終えた時の達成感は言葉には言い表せません。


依山築閣見平川夜闌箕斗插屋椽
我来名之意適然老松魁梧數百年
斧斤所赦今參天風鳴媧皇五十弦
洗耳不須善薩泉嘉三子甚好
賢力貧買酒醉此筵夜雨鳴廊到
曉懸相看不歸卧僧氈泉枯石燥
復瀑溪山光暉秀我妍野僧早
早饑不能饘曉見寒溪有炊煙
東坡道人已沈泉張矣何時到眼
前釣臺驚濤可畫眠怡事看
篆蛟龍縄安得此身脱拘攣手舟
戴諸支長周旋　松風閣詩巻　隼人

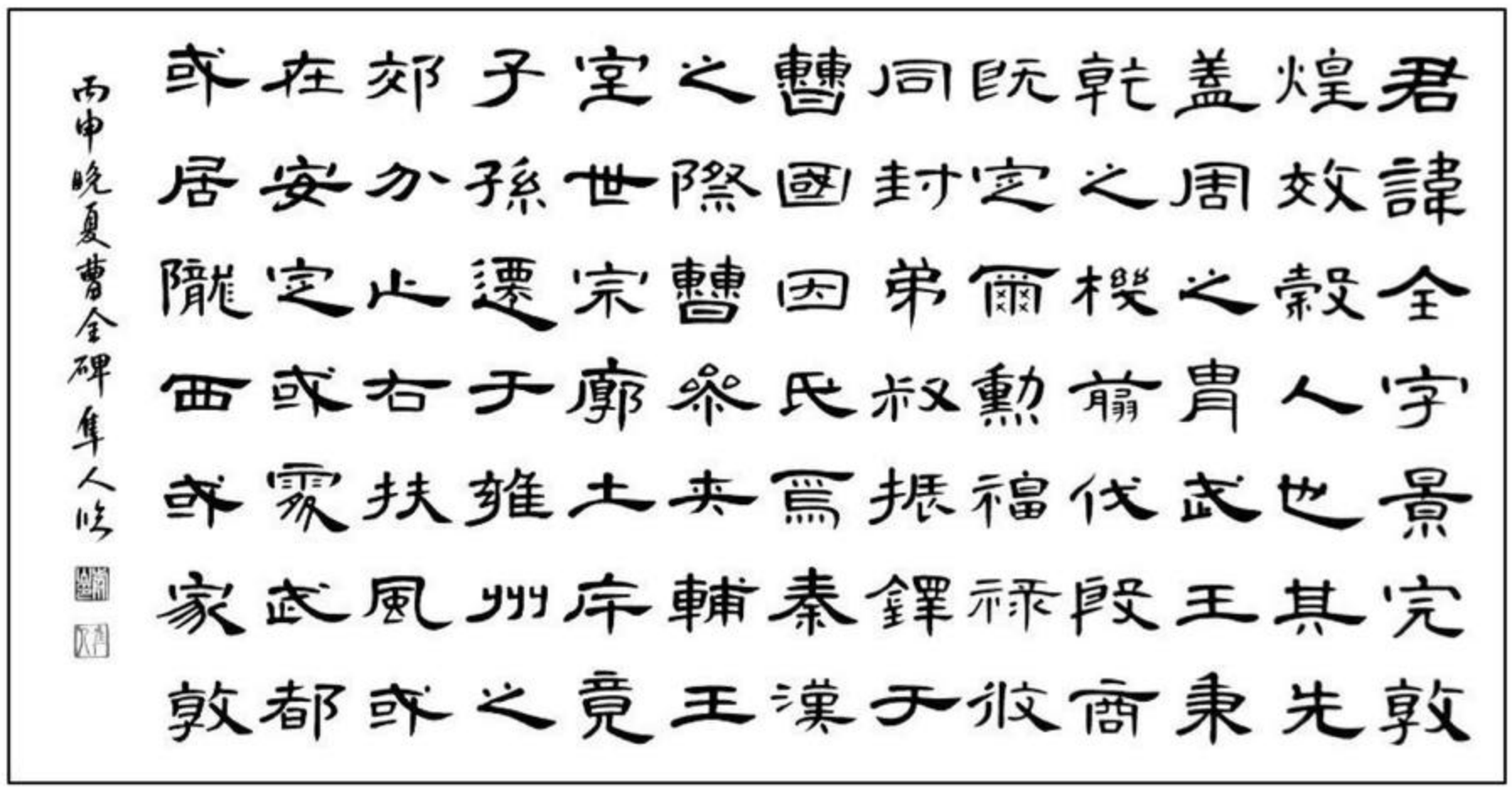
61

前山隼人　二回生

臨書　隷書　『曹全碑』　全紙

「君諱全字景完敦煌效穀人也其先蓋周之冑武王秉乾之機翦伐殷商…或居隴西或家敦」

集中力が身に付いたと思います。



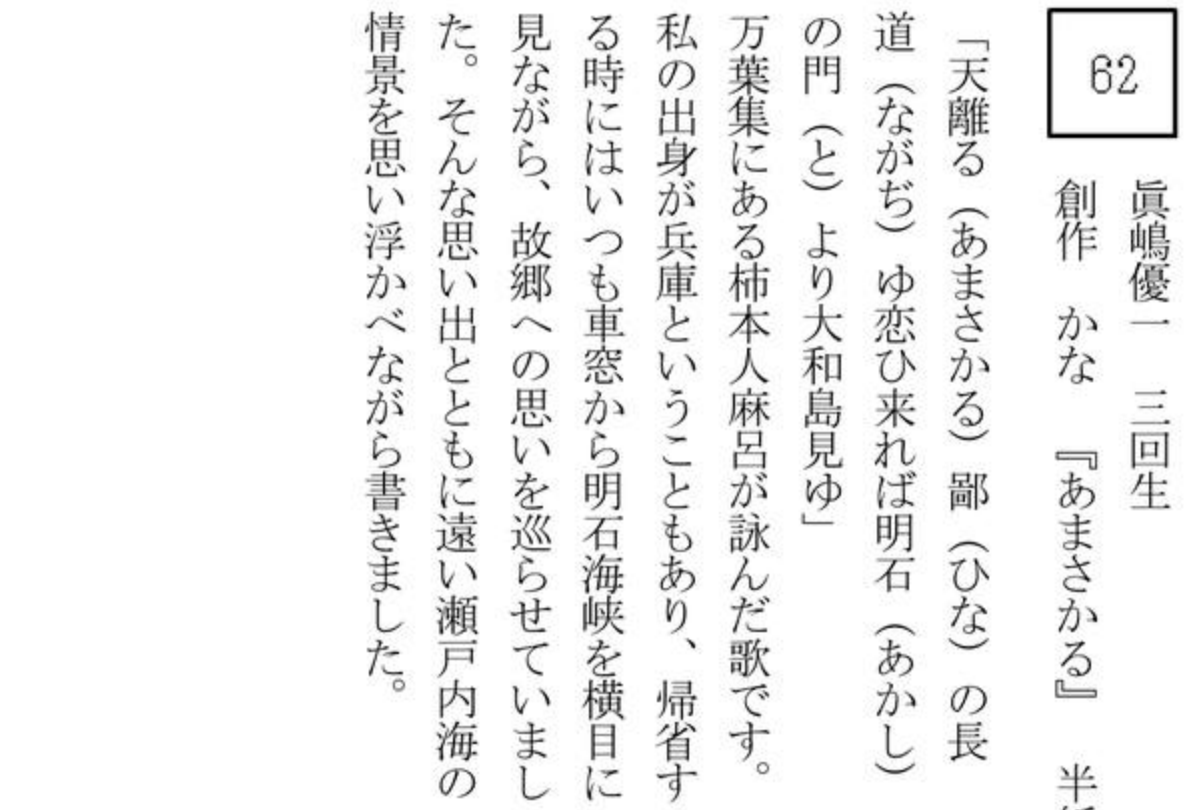
62

眞嶋優一　三回生

創作　かな　『あまさかる』　半紙

「天離る（あまさかる）鄙（ひな）の長道（ながぢ）ゆ恋ひ来れば明石（あかし）の門（と）より大和島見ゆ」

万葉集にある柿本人麻呂が詠んだ歌です。私の出身が兵庫ということもあり、帰省する時にはいつも車窓から明石海峡を横目に見ながら、故郷への思いを巡らせていました。そんな思い出とともに遠い瀬戸内海の情景を思い浮かべながら書きました。



63

松尾和輝　二回生

臨書　楷書　褚遂良『孟法師碑』　半切

「法師俗姓孟氏諱静素江夏安陸人也其先徙里成仁繼跡於孔墨冬荀表徳齊聲於曾閔」

書いてみたいと思った作品が、たまたま前回臨書した作品と同じ褚遂良の作品でした。調べるまで全く気が付きませんでしたが、前回の作品と比べながら書くのも楽しかったです。



64

家倉凌　修士一回生

臨書　草書　懐素『苦筍帖』　半切

「苦筍及茗異常佳、乃可逕来。懐素上」

苦筍帖は数年前に出会って以来、私が行草を書くときにいつも意識する法帖で、ここに行草二行書きの理想が完成されていると感じます。今回はこれを半切作品とするために背臨の形をとらせていただきました。半切行草二行書きの理想を目指して。そして懐素に最大限の敬意をこめて。



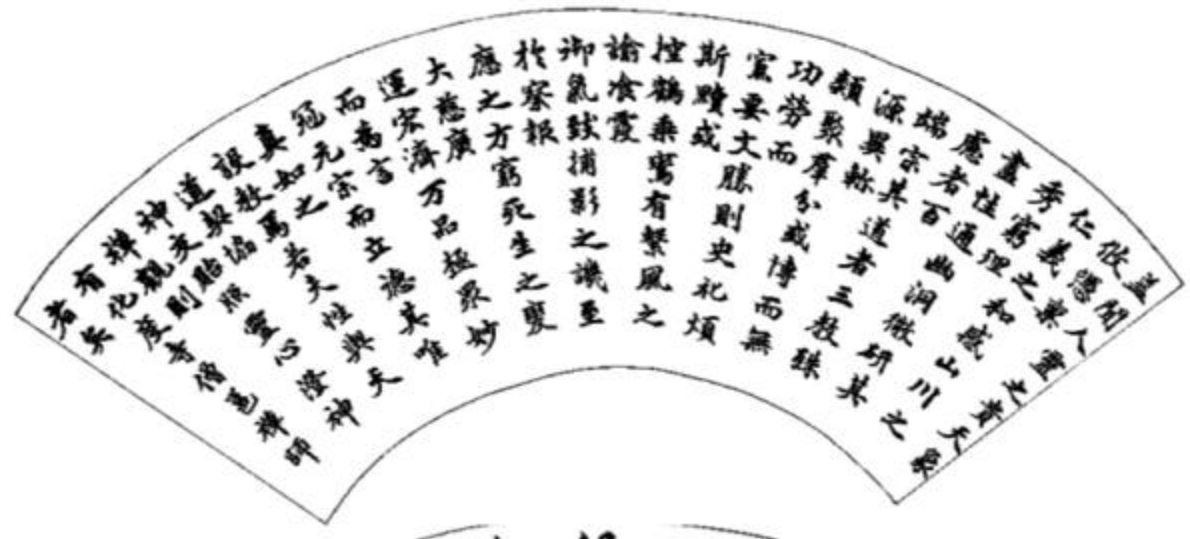
65

矢野凱己　三回生

臨書　楷書・行書・草書　李文田・戴醇士・王寵　『扇面三種』　扇面三枚

「蓋聞人霊之貴……僧邕禪師者矣　／白首歸來種萬……作春風爛漫晴　／錦石疏花暑氣……覺西山爽氣横」

「扇面がやりたい！」「楷行草三書体やりたい！」「金泥で書いてみたい！」をすべて詰め込みました。個人的には行書がお気に入りです。





66

山口和樹　三回生

創作　隷書　『神清智明』

半切横

「神清智明」

イメージは重鎮の部屋の一角にあるような額字。意味は心清く賢明であること。そんな意味とは対極に位置する人間だからこそ、書けることもある。



67

山口和樹　三回生

創作　楷書　『喝』　全紙横

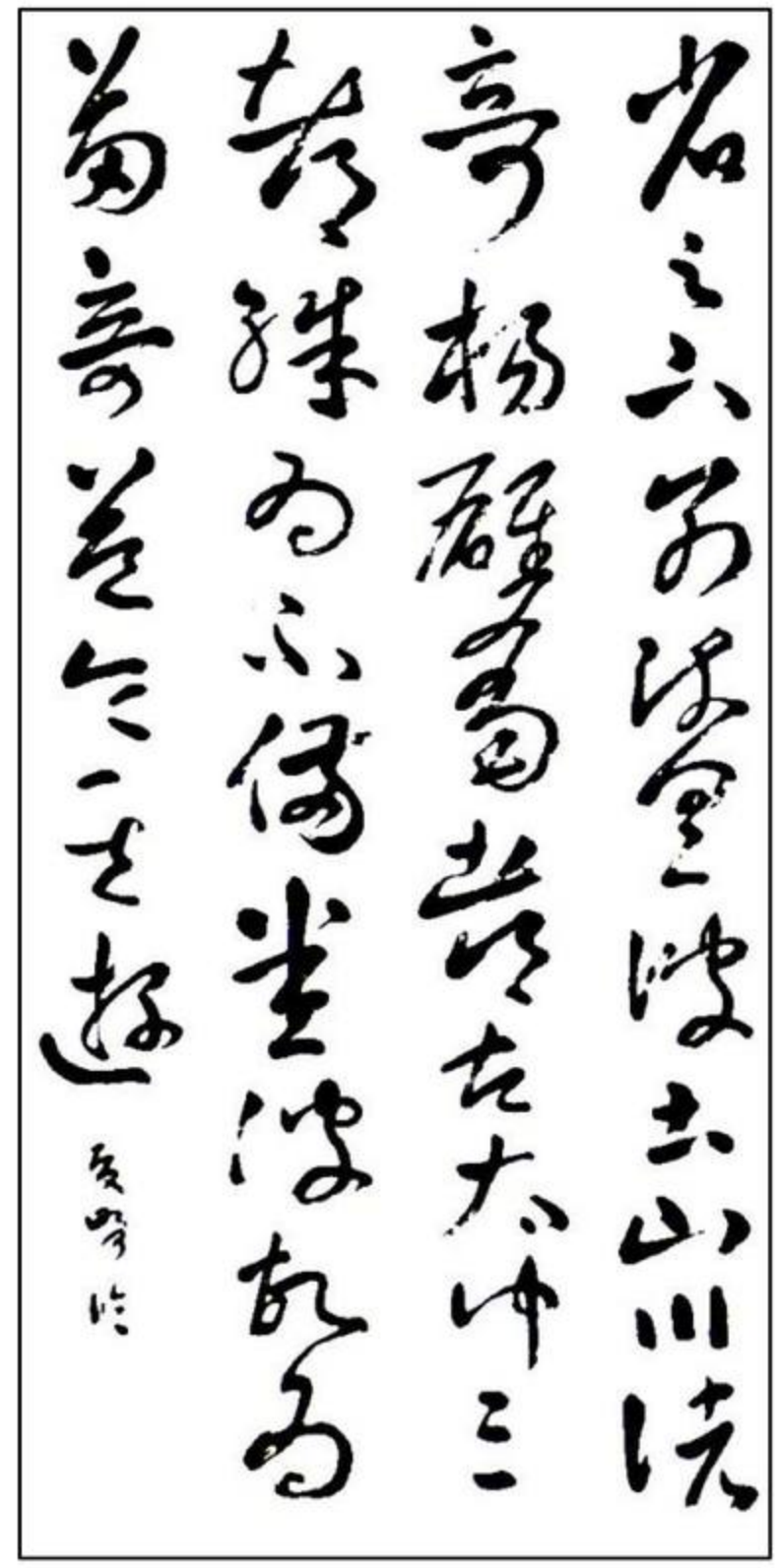
「喝」

迫力のその先にあるものを目指して…



68

山崎夏野　三回生
臨書　草書　王羲之『十七帖』　全紙



「省足下別疏具彼土山川諸奇楊雄蜀都左太沖三都殊爲不備悉彼故爲多奇益令其遊」こんな草書好きだなーと思って選びました。おかげで飽きることなく練習することができました。

69

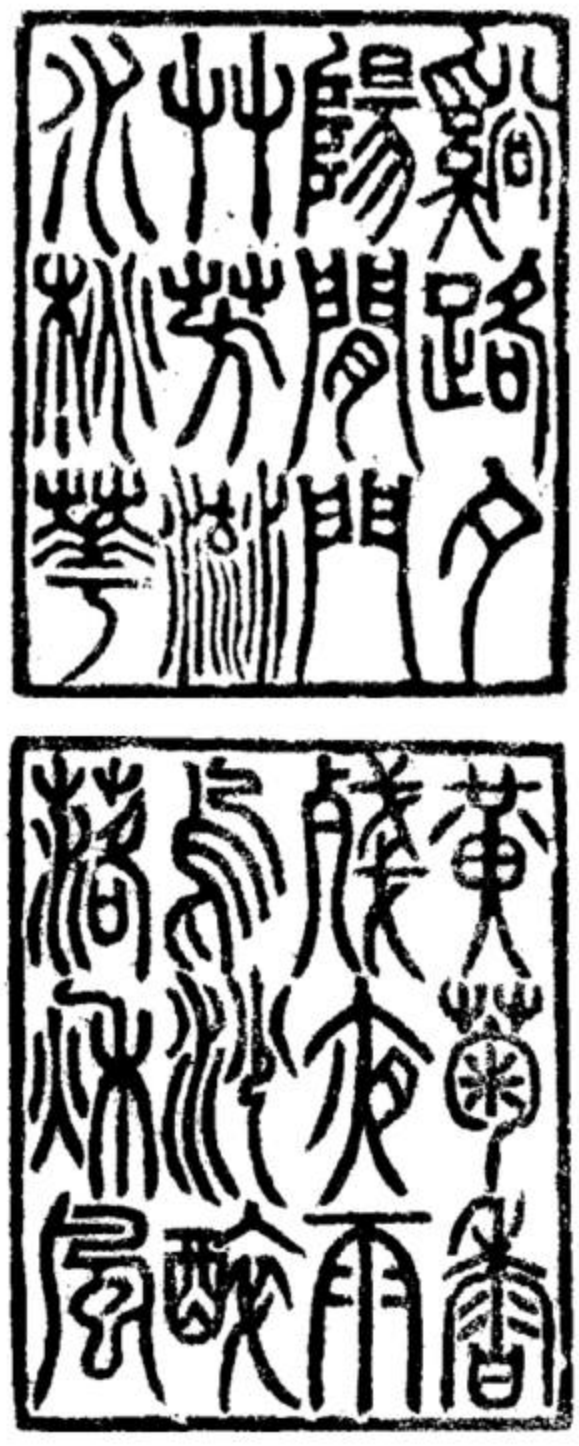
山科直也　三回生
創作　調和体　『旅人　湯川秀樹の言葉より』　半切



「未知の世界を探求する人々は地図を持たない旅行者である。」この旅行者は純粋な楽しみのために、まだ見ぬ出会いを求めてさまようのでしょう。紙の前で書こうとしている自分もまたそうでありたいものです。

70

木下有羽　三回生・橋詰都　二回生
創作　篆刻　『春夏秋冬』　半切四分の一



「春：溪路夕陽芳艸間門流水桃花　夏：緑楊樹頭山近碧草門前徑斜
秋：黄菊香残夜雨烏紗醉落秋風　冬：堅氷涸于川底白雪隕于雲端」
篆刻修行中！
小篆って、かわいいなあ

＊部員紹介＊

顧問 京都大学大学院 人間・環境学研究科 阿辻 哲次教授

技術顧問 日展会友 書道家 寺本 蒼玄先生

一回生

文 和泉龍
医 今井啓明
経済 イムヒョンジュン
理 上田浩司
工 大田滉貴
工 覚道直治
京学 勝野初紀
総人 勝谷香子
法 金岡杏祐
工 金山優作
工 邢書禹
医 佐山侑莉
工繊 嶋貫真子
文 朱俊銘
法 鈴木悠馬
工繊 高増航太
法 建部壮一郎
農 張馨元
経済 辻均
理 中村勇真
医 野田智子
文 挟間優美
医 東原佳子
工 一二暉生
文 平井達也
法 村上友梨
農 吉岡智志
医 渡邊由葉

二回生

工 阿部朱夏
医 今村朱里
法 上村香鈴
医 浦川真由子
法 小野日菜乃
教育 神崎七海
工 木上博之
工 郡健一郎
農 小林由佳
法 米田景
工 近藤泰仁
農 阪井田有紗
文 佐武千寛
農 杉本舞
工 角裕介
理 善野和人
ダム女 髙林亜美
文 橘大輝
法 徳田寛生
工 中道広治
文 仲村康太郎
文 中村直樹
工 橋詰都
理 原誠人
工 原田拓実
文 平井良江
同志社 平野晶子
法 前山隼人
農 松尾和輝

三回生

造形 大池ららる
医 岡本晴香
工 奥田祐司
経済 笠原知生
法 川口功
府医 木高早紀
農 木下有羽
医 小森千裕
経済 コリー・クロッカー
法 清水麻友美
医 下坂桃代
薬 竹内春佳
医 立田俊也
総人 深谷拓未
農 堀場菜摘
造形 眞嶋優一
法 三村祐貴子
工 宮部大志
工 矢野凱己
工 山口和樹
農 山崎夏野
工 山科直也
工 渡辺顕

四回生

農 新井一矢
薬 荒巻拓哉
理 上西隆太
工 牛山泰喜
工 上井晴仁
工 閻姝恒
工 角谷遊野
農 釜阪紘平
工 藏岡凌平
経済 小山佳哲
文 篠原理那
光華 島津七明
工 白谷暢浩
工 宗哲仁
理 疋田研一郎
法 徳川鈴奈
法 山﨑絢香
総人 山脇謙
文 吉村友希
理 柳梓慧

六回生

総人 平野泰隆

修士一回生

法 大石龍太
農 片野裕太
工 河合翼
経済 柯潔
阪大 小島健史
工 石博昭
農 中谷百花
工 藤田雄也
農 家倉凌

修士二回生

理 伊東優治
文 王薈媛
法 大泉陽輔
医 川上澄香
工 小松聡子
情報 鈴木貴也
人環 陳巧香
農 寺西幸
工 藤井結稀
工 山本大翔
薬 渡辺健介

博士課程修了

地環 藤井基弘

掛軸 文房四宝 和紙の店 書楽

〒605-0012 京都市東山区東山三条東入南側
TEL.075-762-2330／FAX.075-751-6571
syoraku@aioros.ocn.ne.jp
〈日曜・祝日定休〉

Calligraphic Item Specialty Store 書遊 検索
篆刻用品・書道用品・額・軸装はお任せください。
書遊
http://www.syoyu-e.com/
AM.10:00－PM.6:00

奈良本店 駐車場完備
奈良市今辻子町37
TEL0742-23-5547
FAX0742-20-2261

大阪店 駐車場あり
大阪市福島区福島5-14-6クレセントビル2F
TEL06-6458-8808
FAX06-6456-4077

京都店
京都市中京区高倉通三条下る丸屋町164
TEL075-251-7800
FAX075-251-7802

新潟営業所
TEL 025-374-5510
FAX 025-374-5511

札幌アメミヤ 単独店
札幌市中央区南一条西2丁目5南一条Kビル5F
TEL011-398-9400
FAX011-398-9401

筆・墨・硯・書画用紙・色紙短冊・日本画用具
株式会社 松楳園
〒600-8075 京都市下京区柳馬場通仏光寺下ル
TEL（075）351－6380(代)
FAX（075）361－8006
http://www.shoubaien.co.jp.

香/筆/和風文具/香道具/茶道具
鳩居堂
〒604-8091 京都市中京区寺町姉小路上ル下本能寺前町520
営業時間 10～18時 定休日(日曜日)
TEL. 075(231)0510 FAX. 075(221)5987
地下鉄東西線市役所前駅下車5番出口
http://www.kyukyodo.co.jp

京筆・京文房
龍虫堂
京都 〒604-0916 京都市中京区寺町通二条上ル
TEL.075-252-4120 FAX.075-252-0006
東京 〒102-0072 東京都千代田区飯田橋四丁目六の二
東洋美術印刷本社ビル一階
TEL.03-3239-0733 FAX.03-3239-0731

文具四寶（筆・墨・硯・紙）和紙工芸品 書画作品
書芸サロン 賛交
二条店 〒604-0931 京都市中京区二条通河原町西入北側
TEL・FAX：075-222-0390
E-mail：info@shoga-sankou.co.jp
URL：http://www.shoga-sankou.co.jp
株式会社 賛交社 本社 〒607-8216 京都市山科区勧修寺東出町27
TEL：075-572-8964／FAX：075-572-8905

かな料紙・京染和紙
加工紙・画仙紙・半紙他
書道用和紙の専門店
紙の津久間
京都市下京区新町通花屋町下ル
TEL（075）371－8186（代）
FAX（075）371－8189

墨筆硯紙 書道用品一式
京都 古梅園
〒604-0916
京都市中京区寺町二条上る
TEL（075）231－1531
FAX（075）231－0272

京都大学書道部　平成 28 年度　第 117 回

初夏書展　―書展パンフレット―

●発行　：京都大学書道部
●編集者：京都大学書道部平成 27 年度パンフ係
●発行日：2016 年 6 月 18 日
●印刷　：大阪コピー

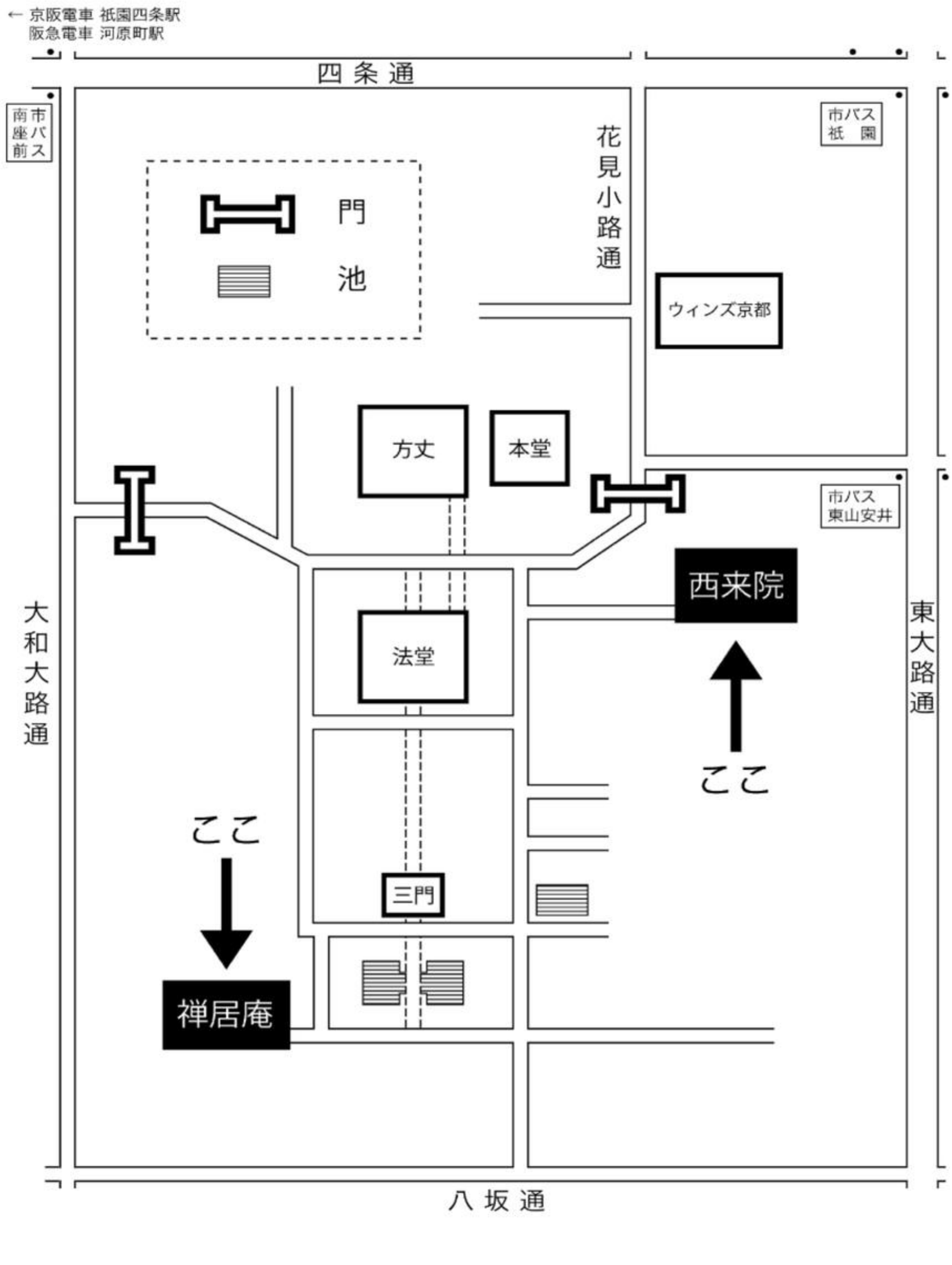
□京都大学書道部□

〒606-8317
京都市左京区吉田本町
URL　：http://kshodobu.sakura.ne.jp/
E-mail　：info@kshodobu.sakura.ne.jp
Twitter：@kucc_E201

代表　：矢野凱己(工学部 3 回)

Printed in Japan.　　©京都大学書道部　2016

—建仁寺案内図・周辺地図—



ご来場ありがとうございました。

京都大学書道部



This book was
made by the LeME